



- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
 - 2.1. 本書の目的
 - 2.2. 前提条件
 - 2.3. 対象読者
 - 2.4. IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の機能
 - 2.5. スタンドアローン構成と分散構成
 - 2.6. 用語解説
- 3. インストール前に
 - 3.1. 必要なライセンス
 - 3.2. 注意事項
 - 3.3. 運用マシン構成例
- 4. セットアップの流れ
 - 4.1. スタンドアローン構成
 - 4.2. 分散構成
- 5. ミドルウェアのセットアップ
- 6. セットアップ
 - 6.1. スタンドアローン構成
 - 6.2. 分散構成
- 7. ミドルウェア製品の起動・停止
- 8. デプロイ
- 9. テナント環境セットアップ
- 10. ライセンスの登録
- 11. アップデート・パッチの適用・モジュール構成の変更
 - 11.1. アップデート
 - 11.2. パッチ
 - 11.3. モジュール構成の変更
- 12. アンインストール
 - 12.1. スタンドアローン構成
 - 12.2. 分散構成
- 13. 付録
 - 13.1. WSDLファイル
 - 13.2. 連携エンジンバージョン

連携エンジン HTMLtoPDF (Windows)

連携エンジン HTMLtoPDF のインストール

Windows での 連携エンジン HTMLtoPDF のインストール手順を示します。

1. 連携エンジン HTMLtoPDF をインストールする対象サーバに、管理:あるユーザでログインしてください。
2. 連携エンジン HTMLtoPDF の圧縮ファイル (htmltopdf.X.X.X.zip) を解凍し、適切な場所に配置してください。

！ 注意

UACの監視下にあるディレクトリにインストールした場合、きにおいて制限を受ける可能性があります。

そのため、連携エンジン HTMLtoPDF のインストール先は、UACの監視下にあるディレクトリは避けてください。

インストール先の例は、次の通りです。

```
C:\tool\htmltopdf
```

！ 注意

インストールパスには、バージョン番号を含めないことを

インストールパスには環境変数を設定するため、バージョン合、環境変数の再設定が必要となる場合があります。

環境変数

Windows での 連携エンジン HTMLtoPDF の環境変数の設定手順を示しま

1. 「コントロールパネル」 - 「システムとセキュリティ」 - 「システム」をクリックします。

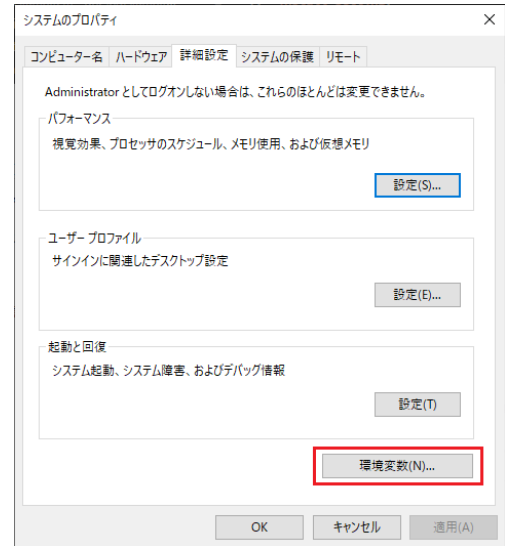


！ 注意

「システムのプロパティ」画面の表示方法は、OSにより異

2. 「システムのプロパティ」画面が表示されるので、「詳細設定」タブ

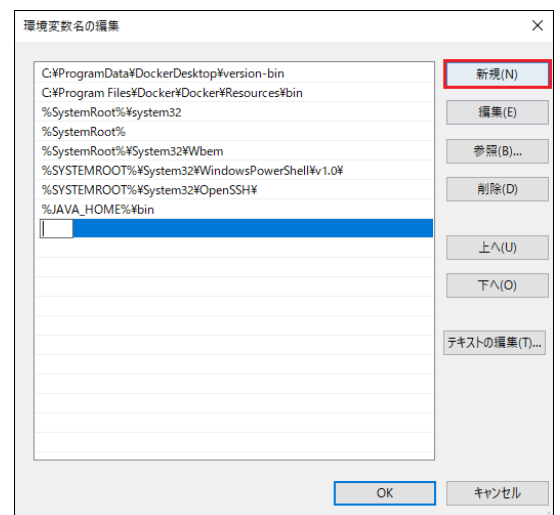
変更年月日	変更内容
2013-10-11	初版
2014-04-01	第2版 下記を追加・変更しました。 「warファイルのデプロイ」手順を修正
2014-12-01	第3版 下記を追加・変更しました。 ドキュメント全般 Windows Server 2012 R2 向けの記述を追加
2015-07-01	第4版 下記を追加・変更しました。 設定ファイルの編集、サーバ再起動の記述を追加
2016-08-01	第5版 下記を追加・変更しました。 PDFオートコンバータEXに関する注意事項を追加
2016-12-01	第6版 下記を追加・変更しました。 既存環境からのバージョンアップ手順を追加
2017-08-01	第7版 下記を追加・変更しました。 PDFオートコンバータEXインストール・ガイドを更新
2018-04-01	第8版 下記を追加・変更しました。 「PDF変換サーバ (Windows) での作業 (既存環境のバージョンアップ)」を修正 「サポート」の章を削除
2018-08-01	第9版 下記を追加しました。 「インストール前に」の章に「Windows Update」の記載を修正
2018-12-01	第10版 下記を追加・変更しました。 「PDF変換サーバ (Windows) での作業」の章で「OSを再起動してください。」と記述を追加 「PDF変換サーバ (Windows) での作業 (既存環境のバージョンアップ)」の章で「OSを再起動してください。」と記述を追加 「PDF変換サーバ (Windows) での作業」の章で「OSを再起動してください。」と記述を追加 「intra-mart Accel Platform での作業」の章に「PDF変換サーバへの接続のリトライ回数」の記載を追加 - 表記のゆれを訂正
2020-04-01	第11版 下記を追加・変更しました。 - Windows 7 / Windows Server 2008 の記述を削除 「プロジェクトの作成とモジュールの選択」に「アプリケーションを複数同時に選択する場合は、必ず同じバージョンを選択してください。」と記述を追加 - CD-ROMの記述を削除 - UACの監視下にあるディレクトリをインストール先として避ける記述を追加 「PDFオートコンバータEX インストール・ガイド」および「PDFコンバータXP インストール・ガイド」を更新 「PDFオートコンバータEX のインストール」「PDFオートコンバータEX の再インストール」隠しフォルダのパスの誤記を修正



3. 「環境変数」画面が表示されるので、「システム環境変数」-「PATH」をクリックします。

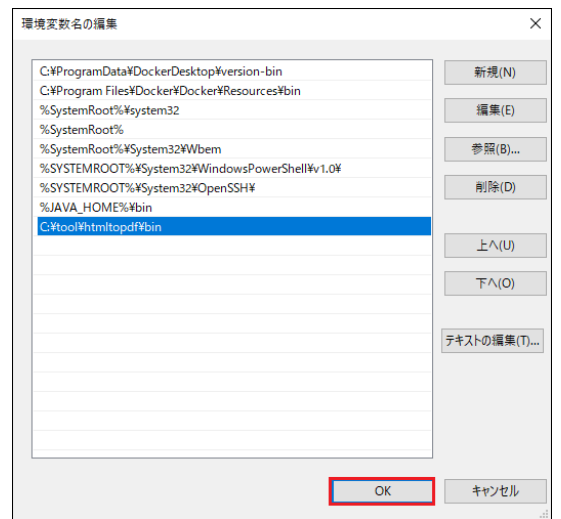


4. 「環境変数名の編集」画面が表示されるので、「新規」をクリックし



5. < %HTMLTOPDF_HOME% /bin >のパスを入力し、「OK」をクリ

変更年月日	変更内容
2020-08-01	第12版 下記を追加・変更しました。 「 インストール前に 」 - 「 全体のインストール作業の流れ 」の intra-mart Accel Platform サーバでのインストール作業から「jarファイルの配置」を削除 「 PDFオートコンバータEX インストール・ガイド 」と「 PDFコンバータXP インストール・ガイド 」のリンクを公開ドキュメントのリンクへ変更 「 付録 」を追加 「 WSDL ファイル 」を移動 「 連携エンジンバージョン 」を追加
2020-12-01	第13版 下記を追加・変更しました。 「 全体のインストール作業の流れ 」の記述を変更 「 必要なライセンス 」の記述を変更 「 注意事項 」の記述を変更 「 サーバ構成について 」の記述を変更 「 運用マシン構成例 」の記述を変更 「 インストール・環境設定 」 「 PDF変換サーバ での作業 」を「PDF変換サーバ (Windows) での作業」から変更し、記述を変更 「 Javaランタイムのインストール 」の記述を変更 「 Apache Tomcat のインストール 」の記述を変更 「 PDFコンバータXP のインストール 」の記述を変更 「 PDFオートコンバータEX のインストール 」の記述を変更 「 環境変数の設定 」の記述を変更 「 warファイルのデプロイ 」の記述を変更 「 Apache Tomcat の起動 」の列を削除 「 intra-mart Accel Platform での作業 」 「 設定ファイルの編集 」の記述を変更 「 アンインストール 」 「 PDF変換サーバ での作業 」を「PDF変換サーバ (Windows) での作業」から変更し、記述を変更 「 Javaランタイムのアンインストール 」の記述を変更 「 Apache Tomcat のアンインストール 」の記述を変更 「 PDFコンバータXP のアンインストール 」の記述を変更 「 PDFオートコンバータEX のアンインストール 」の記述を変更 「 環境変数の削除 」の記述を変更 「 intra-mart Accel Platform での作業（既存環境のバージョンアップ) 」 「 設定ファイルの編集 」の記述を変更 「 PDF変換サーバ での作業（既存環境のバージョンアップ) 」を「PDF変換サーバ (Windows) での作業（既存環境のバージョンアップ) 」から変更し、記述を変更 「 PDFコンバータXP の再インストール 」の記述を変更 「 PDFオートコンバータEX の再インストール 」の記述を変更 「 環境変数の設定 」の記述を変更 「 warファイルのデプロイ 」の記述を変更 「 Apache Tomcat の起動 」の列を削除 「 連携エンジンバージョン 」を更新
2021-04-01	第14版 下記を追加・変更しました。 「 連携エンジンバージョン 」を更新



6. 「OK」をクリックします。



7. コマンドプロンプトを起動し、次のコマンドを実行します。

```
$ htmltopdf -v
```

8. 画面にバージョン番号が表示されれば環境変数の設定は完了です。

```
$ htmltopdf 64Bit Vx.x.x.x
```

連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール

Windows での 連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール手順を示し

1. 連携エンジン HTMLtoPDF をインストールした対象サーバに、管理:あるユーザでログインしてください。
2. 連携エンジン HTMLtoPDF のインストール先フォルダを削除してく

環境変数の削除

Windows での 連携エンジン HTMLtoPDF の環境変数の削除手順を示し

1. 「コントロールパネル」-「システムとセキュリティ」-「システム」をクリックします。

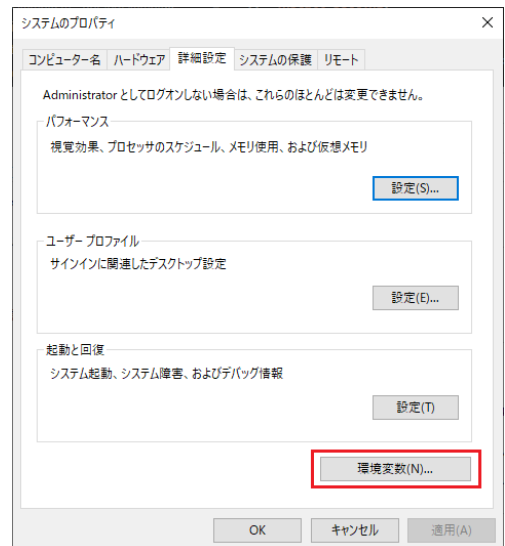
変更年月日	変更内容
2021-08-01	第15版 下記を追加・変更しました。 「PDFオートコンバータEX インストール・ガイド」、および、「PDFコンバータXP インストール・ガイド」を更新 「PDFコンバータXP のインストール」へ注意を追加 「PDFコンバータXP の再インストール」へ注意を追加 「連携エンジンバージョン」を更新
2021-12-01	第16版 下記を追加・変更しました。 「PDFオートコンバータEX インストール・ガイド」を更新 「連携エンジンバージョン」に 2021 Winter に対応したバージョンを追加 「PDFオートコンバータEX のインストール」で32bitに関する記載を削除 「PDFコンバータXP の再インストール」で32bitに関する記載を削除 「PDFオートコンバータEX の再インストール」で32bitに関する記載を削除
2022-06-01	第17版 下記を追加・変更しました。 「連携エンジンバージョン」に 2022 Spring に対応したバージョンを追加
2022-12-01	第18版 下記を追加・変更しました。 「連携エンジンバージョン」に 2022 Winter に対応したバージョンを追加
2023-04-01	第19版 下記を追加・変更しました。 「連携エンジンバージョン」に 2023 Spring に対応したバージョンを追加



注意

「システムのプロパティ」画面の表示方法は、OSにより異

2. 「システムのプロパティ」画面が表示されるので、「詳細設定」タ



3. 「環境変数」画面が表示されるので、「システム環境変数」-「PATH

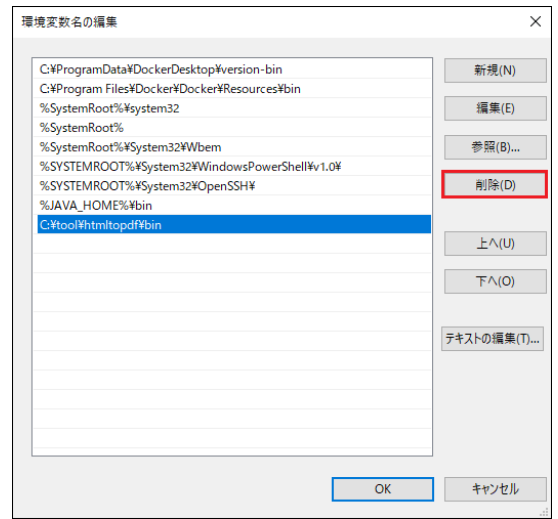


4. 「環境変数名の編集」画面が表示されるので、< %HTMLTOPDF_H

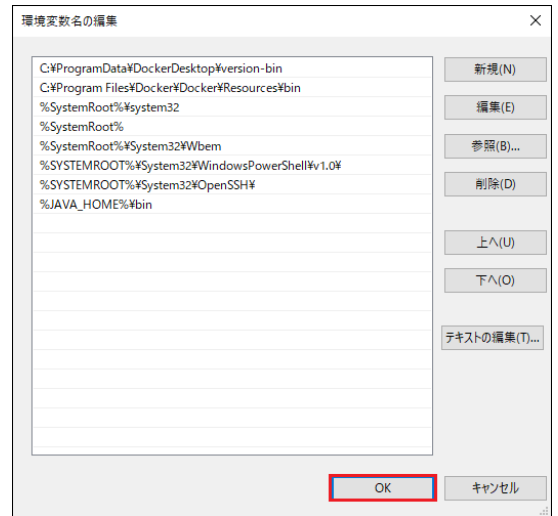
変更年月日	変更内容
-------	------

2023-10-01	第20版 下記を追加・変更しました。 「 スタンドアローン構成と分散構成 」を追加 「 インストール前に 」 「 全体のインストール作業の流れ 」を削除 「 セットアップの流れ 」を追加 「 ミドルウェアのセットアップ 」を追加 「 インストール・環境設定 」 「 Apache Tomcat のセットアップ 」を追加し、次の項目を「 Apache Tomcat のセットアップ 」に移動 「 Javaランタイムのインストール 」 「 Apache Tomcat のインストール 」 「 環境設定 」を追加し、次の項目を「 環境設定 」に移動 「 PDFオートコンバータEX の環境設定 」 「 環境変数の設定 」 「 warファイルのデプロイ 」 「 設定ファイルの編集 」 「 Apache Tomcat の起動 」 「 環境変数の設定 」から intra-mart Accel Documents Secure Download Option の記述を削除 「 WARファイルの作成 」を追加 「 プロジェクトの作成とモジュールの選択 」の項目を「 WARファイルの作成 」に移動し、WARファイルの記述を削除 「 ミドルウェア製品の起動・停止 」を追加 「 デプロイ 」を追加 「 テナント環境セットアップ 」を追加 「 ライセンスの登録 」を追加 「 アップデート・パッチの適用・モジュール構成の変更 」を追加 「 既存環境のバージョンアップ 」の記述を「 アップデート 」に移動 「 環境設定 」を追加し、次の項目を「 環境設定 」に移動 「 PDFオートコンバータEX の環境設定 」 「 環境変数の設定 」 「 warファイルのデプロイ 」 「 設定ファイルの編集 」 「 Apache Tomcat の起動 」 「 環境変数の設定 」から intra-mart Accel Documents Secure Download Option の記述を削除 「 WARファイルの作成 」を追加 「 プロジェクトの再作成とモジュールの選択 」の項目を「 WARファイルの作成 」に移動し、WARファイルの記述を削除 「 連携エンジンバージョン 」に 2023 Autumn に対応したバージョンを追加
------------	--

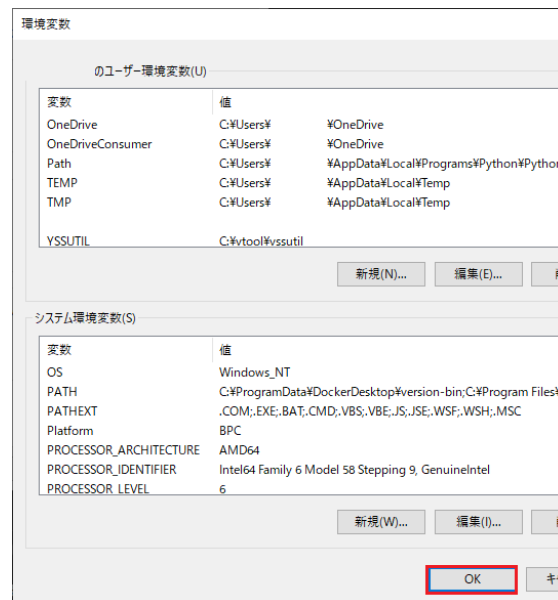
2024-04-01	第21版 下記を追加・変更しました。 「 連携エンジンバージョン 」に 2024 Spring に対応したバージョンを追加
------------	--



5. 「OK」をクリックします。



6. 「OK」をクリックします。



連携エンジン HTMLtoPDF （Linux）

連携エンジン HTMLtoPDF のインストール

Linux での 連携エンジン HTMLtoPDF のインストール手順を示します。

1. 連携エンジン HTMLtoPDF の圧縮ファイル (htmltopdf.linux.X.X.バージョン番号) をインストール先にコピーします。
インストール先を < /usr/local/ > として説明します。

変更年月日	変更内容
2024-10-01	第22版 下記を追加・変更しました。 「はじめに」 「前提条件」に Office系→PDF変換 を使用する場合の記述を追加 「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の機能」を追加 「スタンドアローン構成と分散構成」のサポート対象の構成について記述を変更 「用語解説」に 連携エンジン HTMLtoPDF に関する記述を追加 「インストール前に」 「インストール前に必要な確認事項」を削除 「正常に動作しない環境」を削除 「注意事項」を見直し、記述を変更 「サーバ構成について」を削除 「運用マシン構成例」 「スタンドアローン構成」を追加 「分散構成（Office系→PDF変換）」を追加 「分散構成（HTML→PDF変換）」を追加 「運用マシン構成例」の記述を「分散構成（Office系→PDF変換）」に移動 「セットアップの流れ」 「スタンドアローン構成」を追加 「分散構成」を追加 「intra-mart Accel Platform」を「分散構成」に移動し、リンク先を変更 「PDF変換サーバ」を「分散構成」に移動し、リンク先を変更、および、連携エンジン HTMLtoPDF に関する記述を追加 「インストール・環境設定」の見出しを「セットアップ」に変更し、構成、および、記述を変更 「アップデート」の構成、および、記述を変更 「アンインストール」の構成、および、記述を変更 「連携エンジンバージョン」に 2024 Autumn に対応したバージョンを追加
2024-10-31	第23版 下記を追加・変更しました。 「連携エンジン HTMLtoPDF（Linux）」 「連携エンジン HTMLtoPDF のインストール」に Xvfb に関連するコマンドの例を追加 「環境変数」に D-Bus の環境変数の設定手順を追加
2025-04-01	第24版 下記を追加・変更しました。 「連携エンジン PDF オートコンバータEX のサービス起動」を追加 「連携エンジンバージョン」に 2025 Spring に対応したバージョンを追加 「連携エンジン HTMLtoPDF（Linux）」 「連携エンジン HTMLtoPDF のインストール」に共有ライブラリに関する注意を追加 「環境変数」の権限設定に関する注意に設定手順を追加

```
$ cp [ディレクトリ]/htmltopdf.linux.X.X.X.tar.gz /usr/local/
```



コラム

連携エンジンのバージョンについては、構築する環境に合います。

- Web Application Server を起動するユーザで、圧縮ファイルを解凍

```
$ cd /usr/local/
$ tar zxvf htmltopdf.linux.X.X.X.tar.gz
```

- 連携エンジン HTMLtoPDF を動作させるために必要な UPower をインストール。UPower の動作に必要な依存関係等の設定は、適宜設定してください。コマンドの例は、次の通りです。

```
$ yum install gobject-introspection libgudev
$ curl -O https://rpmfind.net/linux/centos-stream/9-stream/AppStream/x86_64/os/Packages/upower-0.99.11-11.el9.rpm
$ rpm -ivh upower-0.99.11-11.el9.x86_64.rpm
```

- 連携エンジン HTMLtoPDF を動作させるために必要な Xvfb をインストール。Xvfb の動作に必要な依存関係等の設定は、適宜設定してください。コマンドの例は、次の通りです。

```
$ yum install -y xorg-x11-server-Xvfb
$ yum install -y atk gtk3 pango libXcomposite libXdamage libXrandr
```

- 変換対象ページに含まれている言語に対応したフォントをインストール。システム全体に適用されるようにインストールしてください。インストール先の例は、次の通りです。

```
/usr/share/fonts
```



注意

OSが最小構成などで構築されている環境では、連携エンジン HTMLtoPDF のために必要な共有ライブラリが不足している場合があります。

次のコマンドを実行し、必要な共有ライブラリに不足がないことを確認してください。

```
< %HTMLTOPDF_HOME% >を< /usr/local/htmltopdf >とし、
```

```
ldd /usr/local/htmltopdf/bin/chromhtmltopdf/chromhtmltopdf
```

次はコマンド実行時の出力例です。

```
linux-vdso.so.1 (0x00007ffee9c8f000)
libffmpeg.so => /usr/local/htmltopdf/bin/chromhtmltopdf/libffmpeg.so (0x00007fe91e200000)
libdl.so.2 => /lib64/libdl.so.2 (0x00007fe9286e8000)
libpthread.so.0 => /lib64/libpthread.so.0 (0x00007fe9286e8000)
libgobject-2.0.so.0 => /lib64/libgobject-2.0.so.0 (0x00007fe9286e8000)
libglib-2.0.so.0 => /lib64/libglib-2.0.so.0 (0x00007fe91e6bd000)
libgio-2.0.so.0 => /lib64/libgio-2.0.so.0 (0x00007fe91e01d000)
libnss3.so => not found
libnssutil3.so => not found
libsmime3.so => not found
libnspr4.so => not found
libatk-1.0.so.0 => /lib64/libatk-1.0.so.0 (0x00007fe928656000)
libatk-bridge-2.0.so.0 => /lib64/libatk-bridge-2.0.so.0 (0x00007fe928656000)
：
```

上記の場合、「not found」と出力された< libnss3.so >など4つ不足しています。

上記のような共有ライブラリが不足している環境で HTML→PDF変換を実行するとエラーが発生し、次のようなエラーメッセージを含む内容がログに出力されます。

```
/usr/local/htmltopdf/bin/chromhtmltopdf/chromhtmltopdf: error while loading shared libraries: libnss3.so: cannot open shared object file: No such file or directory
```

不足している共有ライブラリをインストールしてください。

環境変数

変更年月日	変更内容
2025-10-01	第25版 下記を追加・変更しました。 「 セットアップの流れ 」 「 セットアップ 」の構成の変更に伴い、リンクや記述を変更 「 セットアップ 」 「 スタンドアローン構成 」 「 設定ファイルの編集 」を削除 「 設定ファイルの追加・編集 」を追加 「 環境変数 」を追加 「 分散構成 」 「 intra-mart Accel Platform 」 「 設定ファイルの編集 」を削除 「 設定ファイルの追加・編集 」を追加 「 環境変数 」を追加 「 PDF変換サーバ 」 「 JDK のインストール 」にバージョンに関する注意を追加 「 Apache Tomcat のインストール 」にバージョンに関する注意を追加 「 連携エンジン PDF コンバータXP のインストール 」に Windows の設定に関する注意を追加 「 連携エンジン PDF オートコンバータEX のサービス起動 」に起動対象のサービスに関する記述を追加 「 アップデート・パッチの適用・モジュール構成の変更 」 「 スタンドアローン構成 」 「 設定ファイルの編集 」を削除 「 環境変数 」を追加 「 分散構成 」 「 設定ファイルの編集 」を削除 「 環境変数 」を追加 「 アンインストール 」 「 スタンドアローン構成 」 「 環境変数の削除 」を追加 「 分散構成 」 「 環境変数の削除 」を追加 「 連携エンジンバージョン 」に 2025 Autumn に対応したバージョンを追加 「 共通 」 「 HTML→PDF変換 < htmltopdf-config.xml > 」の設定値に関する記述を変更 「 環境変数 」を追加 「 アプリケーションの削除 」に設定ファイルの削除手順を追加 「 環境変数の削除 」を追加

Linux での 連携エンジン HTMLtoPDF の環境変数の設定手順を示します。

1. テキストエディタで、設定ファイル< /etc/profile >を開きます。
次の例は、viエディタを使用する場合です。
2. 連携エンジン HTMLtoPDF のパスに関する環境変数を追記します。
< %HTMLTOPDF_HOME% >を< /usr/local/htmltopdf >として記

```
$ vi /etc/profile
```

```
export HTMLTOPDF=/usr/local/htmltopdf
export PATH=${PATH}:${HTMLTOPDF}/bin
export LD_LIBRARY_PATH=${LD_LIBRARY_PATH}:${HTMLTOPD
```

3. 連携エンジン HTMLtoPDF を動作させるために必要なD-Busの環境変数を追記します。
コマンドの例は、次の通りです。

```
export DBUS_SESSION_BUS_ADDRESS=unix:path=/run/dbus/systemd
```

4. 連携エンジン HTMLtoPDF 用のディスプレイの環境変数を追記し、コマンドを実行します。
コマンドの例は、次の通りです。

```
export DISPLAY=:1
```

5. Linux 環境に再ログインし、設定ファイル< /etc/profile >を読み込みます。
6. 次のコマンドを実行します。

```
$ htmltopdf -v
```

7. 画面にバージョン番号が表示されれば環境変数の設定は完了です。

```
$ htmltopdf Linux Vx.x.x.x
```

! **注意**
systemd などサービス起動する場合、起動ユーザ（ログインユーザ）の .bashrc など設定された環境変数を全く継承しません。resinOS（レスインOS）に直接、環境変数を設定してください。

! **注意**
systemd の Environment / EnvironmentFile では環境変数は上書きされる際は、環境変数ごとに明確にPATHを記載してください。

【NG】
HTMLTOPDF=/usr/local/htmltopdf
PATH=\${HTMLTOPDF}/bin:\$PATH
LD_LIBRARY_PATH=\${HTMLTOPDF}/lib

【OK】
HTMLTOPDF=/usr/local/htmltopdf
PATH=/usr/local/htmltopdf/bin:/usr/bin
LD_LIBRARY_PATH=/usr/local/htmltopdf/lib

本書の目的

本書では IM-PDFAutoConverter for Accel Platform のセットアップ手順について説明します。

コラム

旧バージョンがインストール済みの場合は、旧バージョンをアンインストール後に、本バージョンをインストールしてください。

前提条件

リリースノートに記載されているシステム要件を満たしている必要があります。

詳細については「[IM-PDFAutoConverter for Accel Platform リリースノート](#)」-「[システム要件](#)」を参照してください。

また、Office系→PDF変換を使用する場合は、次のドキュメントに記載されているシステム要件を満たしている必要があります。

- 「[PDFオートコンバータEX インストール・ガイド](#)」
- 「[PDFコンバータXP インストール・ガイド](#)」

対象読者

以下の利用者を対象としています。

- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform のセットアップを行われる方

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の機能

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform には、次の機能があります。

- Office系→PDF変換
特定の形式のファイルをPDFファイルに変換します。
- HTML→PDF変換
intra-mart Accel Platform の画面（HTMLファイル）をPDFファイルに変換します。

機能ごとにPDF変換の仕組みが異なるため、システム要件や対応する構成が異なります。

詳細については、「[IM-PDFAutoConverter for Accel Platform リリースノート](#)」-「[機能一覧](#)」を参照してください。

スタンドアローン構成と分散構成

本書におけるスタンドアローン構成と分散構成は次の構成を指します。

スタンドアローン構成

intra-mart Accel Platform と同じサーバに連携エンジンを導入する構成です。（IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の Office系→PDF変換 は、分散構成のみサポートしています。）

分散構成

intra-mart Accel Platform とは別のサーバ（PDF変換サーバ）に連携エンジンを導入する構成です。

用語解説

- Resin をインストールしたディレクトリを %RESIN_HOME% と略します。
- Apache HTTP Server をインストールしたディレクトリを %APACHE_HOME% と略します。
- Storage として使用するディレクトリを %PUBLIC_STORAGE_PATH% と略します。
- Webサーバ利用時の静的コンテンツを配置するディレクトリを %WEB_PATH% と略します。
- Apache Tomcat をインストールしたディレクトリを %CATALINA_HOME% と略します。
- 連携エンジン HTMLtoPDF をインストールしたディレクトリを

注意

Resin を実行するユーザ以外でインストーラの圧縮ファイルを解凍または、権限ユーザを変更する場合の手順を示します。

実行権限の設定

実行（execute）権限を設定する手順を示します。

- < %HTMLTOPDF_HOME% /bin >に移動します。
< %HTMLTOPDF_HOME% >を< /usr/local/htmltopdf >とします。

```
$ cd /usr/local/htmltopdf/bin/
```

- 全てのファイルに実行権限を付与します。

```
$ chmod +x *
```

- < %HTMLTOPDF_HOME% /bin/chromhtmltopdf >に移動します。

```
$ cd /usr/local/htmltopdf/bin/chromhtmltopdf
```

- 全てのファイルに実行権限を付与します。

```
$ chmod +x *
```

参照権限の設定

参照（Read）権限を設定する手順を示します。

- < %HTMLTOPDF_HOME% /lib >内のファイルに参照権限を設定する手順を示します。

- < %HTMLTOPDF_HOME% /lib >に移動します。
< %HTMLTOPDF_HOME% >を< /usr/local/htmltopdf >とします。

```
$ cd /usr/local/htmltopdf/lib/
```

- 全てのファイルに参照権限を付与します。

```
$ chmod +r *
```

- < %HTMLTOPDF_HOME% /etc >内のファイルに参照権限を設定する手順を示します。

- < %HTMLTOPDF_HOME% /etc >に移動します。
< %HTMLTOPDF_HOME% >を< /usr/local/htmltopdf >とします。

```
$ cd /usr/local/htmltopdf/etc/
```

- 全てのファイルに参照権限を付与します。

```
$ chmod +r *
```

サブディレクトリがある場合は、サブディレクトリ、およびファイルにも同様の権限を設定してください。

HTMLtoPDF < chromhtmltopdf_opt.txt >

HTMLtoPDF の設定ファイル< chromhtmltopdf_opt.txt >を編集する手順

- テキストエディタで、設定ファイル< %HTMLTOPDF_HOME% /bin/chromhtmltopdf_opt.txt >を開きます。
次の例は、viエディタを使用する場合です。< %HTMLTOPDF_HOME% /usr/local/htmltopdf >として説明します。

```
$ vi /usr/local/htmltopdf/bin/chromhtmltopdf/chromhtmltopdf_opt.txt
```

- 最終行にオプション< --no-sandbox >を追記し、保存します。

```
--disable-gpu  
--no-sandbox
```

Xvfb 起動

Xvfb の起動手順を示します。

1. 環境変数に設定したディスプレイの番号を指定し、Xvfb を起動します。
コマンドの例は、次の通りです。

```
$ Xvfb :1 -screen 0 1280x1024x24 &
```

連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール

Linux での 連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール手順を示します。

1. 連携エンジン HTMLtoPDF をインストールしたディレクトリ< %HTMLTOPDF_HOME% >を削除します。
コマンドの例は、次の通りです。

```
$ rm -r /usr/local/htmltopdf/
```

2. UPower が不要な場合は、アンインストールを行ってください。
コマンドの例は、次の通りです。

```
$ yum remove gobject-introspection libgudev  
$ rpm -e upower-0.99.11-11.el9.x86_64
```

3. Xvfb が不要な場合は、アンインストールを行ってください。
コマンドの例は、次の通りです。

```
$ killall Xvfb  
$ yum remove -y xorg-x11-server-Xvfb
```

4. セットアップ時にインストールしたフォントが不要な場合は、アンインストールを行ってください。

環境変数の削除

Linux での 連携エンジン HTMLtoPDF の環境変数の削除手順を示します。

1. テキストエディタで、設定ファイル< /etc/profile >を開きます。
次の例は、viエディタを使用する場合です。

```
$ vi /etc/profile
```

2. 「[環境変数](#)」で追記した、 連携エンジン HTMLtoPDF のパスに関する設定を削除します。
3. 「[環境変数](#)」で追記した、 連携エンジン HTMLtoPDF 用のディスプレイ番号を削除し、保存します。
4. Linux 環境に再ログインし、設定ファイル< /etc/profile >を読み込みます。

HTML→PDF変換 < htmltopdf-config.xml >

HTML→PDF変換 の設定ファイル< htmltopdf-config.xml >を編集する手順を示します。

1. PDF変換サーバ に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインします。
2. HTML→PDF変換 の設定ファイル< htmltopdf-config.xml >を環境変数< %CATALINA_HOME% >に格納します。

ファイル	場所
htmltopdf-config.xml	%CATALINA_HOME%/webapps/htmltopdf/classes

設定値は、次の通りです。

項目名	説明
<entry key="concurrent.process.number">	PDFへの変換処理を同時実行できる数
<entry key="paper.size.width">	出力するPDFファイルの幅の既定値(mm) プログラムにてサイズが指定された場合、そのサイズが優先される

必要なライセンス

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の Office系→PDF変換 をご利用いただくには、次の3つのライセンスが必要です。

- PDFコンバータXP のライセンス
- PDFオートコンバータEX のライセンス
- PDFオートコンバータEX (Java用インターフェース) のライセンス

各製品のインストールの際にライセンスを入力してください。

ライセンス要件、および、ライセンスの入力方法については、次のドキュメントを参照してください。

- 「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform リリースノート」- 「ライセンス要件」
- 「PDFコンバータXP インストール・ガイド」- 「2章. ライセンス設定」
- 「PDFオートコンバータEX インストール・ガイド」- 「5.1. PDF オートコンバータ EX のインストール」

ライセンスが未入力の状態では動作しませんので注意してください。

注意事項

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の注意事項については、次を参照してください。

- 「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform リリースノート」- 「制限事項」

Office系→PDF変換 を使用する場合は、次を参照してください。

- 「PDFオートコンバータEX インストール・ガイド」- 「4章. インストール前に」
- 「タブレットや携帯端末においてPDFファイルを表示する際の注意点」

運用マシン構成例

スタンドアローン構成

構成パターン	構成	説明
[1]	intra-mart Accel Platform (Windows) 1台	intra-mart Accel Platform サーバ (Windows) 1台で運用するケースです。
[2]	intra-mart Accel Platform (Linux) 1台	intra-mart Accel Platform サーバ (Linux) 1台で運用するケースです。

分散構成 (Office系→PDF変換)

構成パターン	構成	説明
[1]	intra-mart Accel Platform (Windows) 1台 PDF変換サーバ (Windows) 1台	intra-mart Accel Platform サーバ (Windows) 1台と、PDF変換サーバ (Windows) 1台で運用するケースです。
[2]	intra-mart Accel Platform (Linux) 1台 PDF変換サーバ (Windows) 1台	intra-mart Accel Platform サーバ (Linux) 1台と、PDF変換サーバ (Windows) 1台で運用するケースです。
[3]	intra-mart Accel Platform (Linux) 1台 PDF変換サーバ (Windows) 2台	intra-mart Accel Platform サーバ (Linux) 1台と、PDF変換サーバ (Windows) 2台で運用するケースです。

分散構成 (HTML→PDF変換)

項目名	説明
<entry key="paper.size.height">	出力するPDFファイルのサイズの既定値(mm) プログラムにてサイズが指定された場合、そちらの値が優先される
<entry key="wait.milisecond">	画面読み込み後、変換までの待機時間(ミリ秒) プログラムにて秒数が指定された場合、そちらの値が優先される
<entry key="timeout.sec">	PDF変換が完了するまでの待機時間(秒) プログラムにて秒数が指定された場合、そちらの値が優先される

WARファイルの作成

アプリケーションの追加

IM-Juggling で作成したプロジェクトに、アプリケーションを追加する手順



コラム

プロジェクトの作成手順については、「intra-mart Accel Platform」- 「プロジェクトの作成とモジュールの選択」を参照してください。



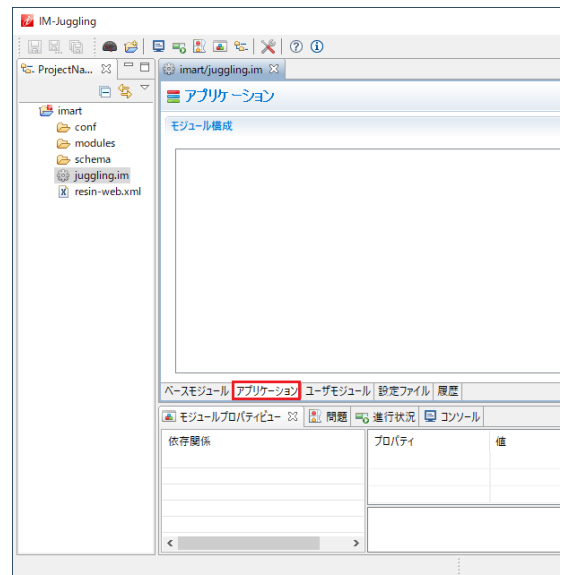
注意

HTML→PDF変換 は intra-mart Accel Platform 2024 Autumnバージョンに対応しています。

対応していない intra-mart Accel Platform のバージョンでプロジェクトを作成した場合、HTML→PDF変換 は使用できません。

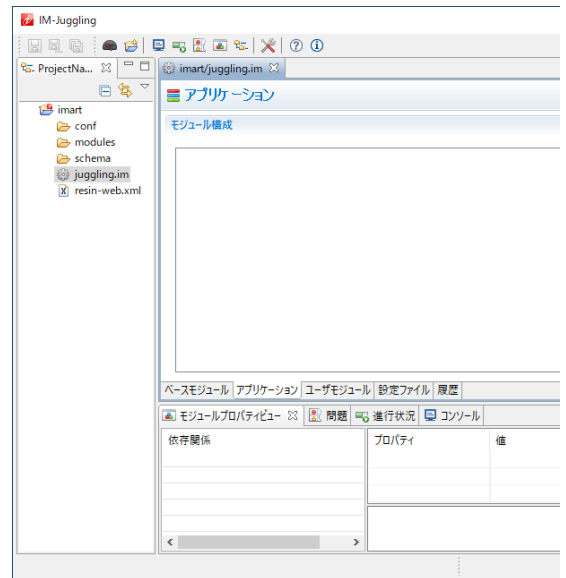
HTML→PDF変換 を使用する場合は、対応している intra-mart Accel Platform でプロジェクトを作成してください。

1. IM-Juggling でプロジェクトを開き、「juggling.im」- 「アプリケーション



2. 「プラス」アイコンをクリックします。

構成パターン	構成	説明
[1]	intra-mart Accel Platform (Windows) 1台 PDF変換サーバ (Windows) 1台	intra-mart Accel Platform サーバ (Windows) 1台と、PDF変換サーバ (Windows) 1台で運用するケースです。
[2]	intra-mart Accel Platform (Linux) 1台 PDF変換サーバ (Linux) 1台	intra-mart Accel Platform サーバ (Linux) 1台と、PDF変換サーバ (Linux) 1台で運用するケースです。



3. 「アプリケーションモジュール選択」画面が表示されます。
「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform」を選択し、「OK」



注意

HTML→PDF変換 を使用する場合は、IM-PDFAutoConve 8.0.25 以上を選択してください。

古いバージョンでは使用できません。

注意

次のアプリケーションを複数同時に選択する場合は、必ず

- IM-PDFDesigner for Accel Platform
- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform
- IM-PDFDirectPrint for Accel Platform
- IM-PDFTIMEStamper for Accel Platform

注意

既に IM-PDFAutoConverter for Accel Platform を導入中
PDFAutoConverter for Accel Platform 8.0.6 以降にパー
は、IM-Juggling のユーザモジュールから IM-PDFCoordi
Platform を削除してください。

4. 「保存」アイコンをクリックし、保存します。

スタンドアローン構成

スタンドアローン構成 でのセットアップ手順は次のフローチャートの通りです。

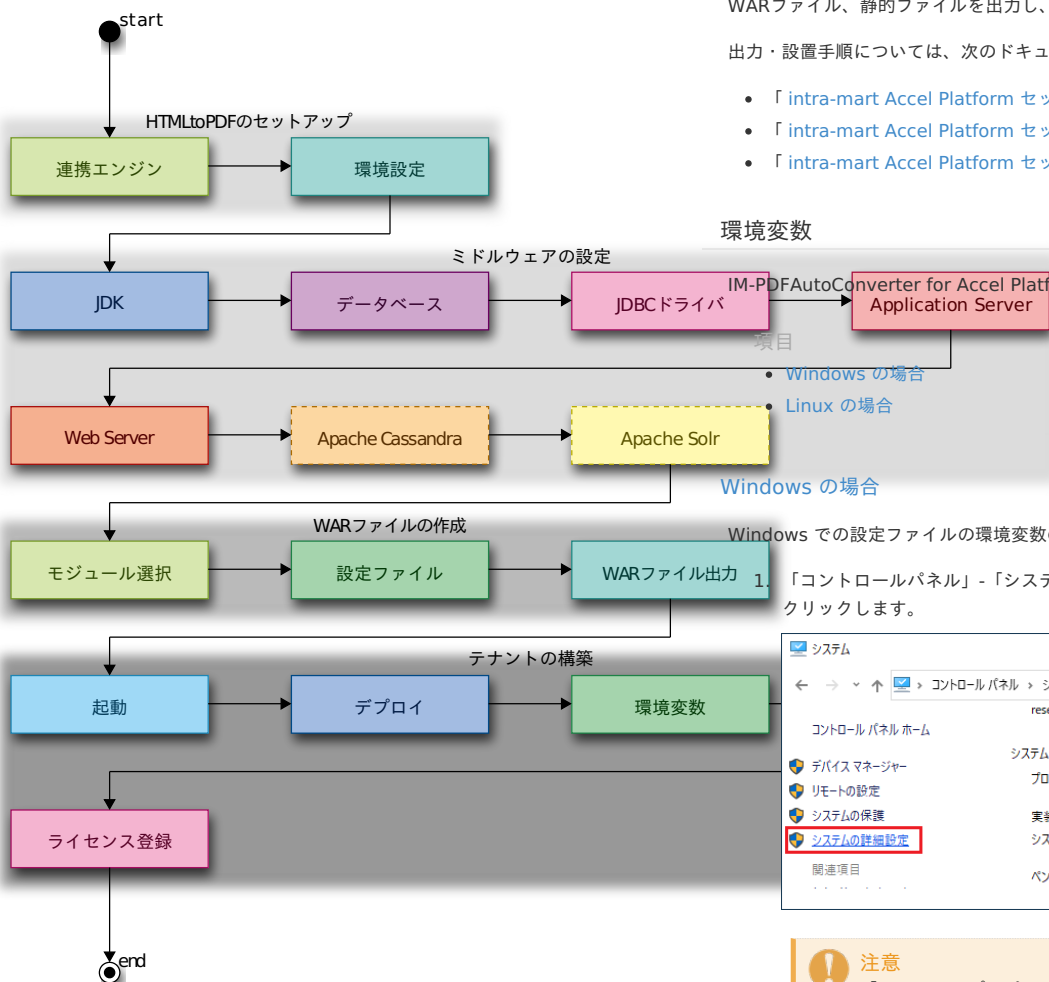
各ステップごとのセットアップ手順は一覧のリンク先を参照してください。



注意
スタンドアローン構成 は、HTML→PDF変換 の機能のみ対応しています。

凡例

- 必須・・・セットアップが必要な項目です。
- 任意・・・セットアップをスキップする事ができる項目です。



WARファイルの出力・設置

WARファイル、静的ファイルを出力し、設置します。

出力・設置手順については、次のドキュメントを参照してください。

- ・「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[WARファイル](#)」
- ・「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[静的ファイル](#)」
- ・「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[デプロイ](#)」

環境変数

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 用設定ファイルの環境変数の設定項目

- ・ [Windows の場合](#)
- ・ [Linux の場合](#)

Windows の場合

Windows での設定ファイルの環境変数の設定手順を示します。

1. 「コントロールパネル」-「システムとセキュリティ」-「システム」をクリックします。



注意
「システムのプロパティ」画面の表示方法は、OSにより異

2. 「システムのプロパティ」画面が表示されるので、「詳細設定」タ

Name	Description
start	
連携エンジン	連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ - 連携エンジン HTMLtoPDF のインストール Windows / Linux
環境設定	連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ - 環境設定 Windows / Linux
JDK	JDK

Name	Description
データベース	データベース
JDBCドライバ	JDBCドライバ
Application Server	Web Application Server
Web Server	Web Server
Apache Cassandra	Apache Cassandra
Apache Solr	Apache Solr
モジュール選択	プロジェクトの作成とモジュールの選択 - アプリケーションの追加
設定ファイル	基盤の設定ファイル - 設定ファイルの追加・編集
WARファイル出力	WARファイルの出力 - WAR ファイルの出力・設置
起動	Web Application Server の起動・停止
デプロイ	WARファイルのデプロイ
環境変数	IM-PDFAutoConverter for Accel Platformの環境変数
テナント構築	テナント環境セットアップ
ライセンス登録	ライセンスの登録
end	

分散構成

分散構成 でのセットアップ手順は次のフローチャートの通りです。

各ステップごとのセットアップ手順は一覧のリンク先を参照してください。

注意

分散構成 は、Office系→PDF変換、および、HTML→PDF変換 の両機能ともに対応しています。

注意

Office系→PDF変換 は、連携エンジン PDFコンバータXP、および、連携エンジン PDFオートコンバータEX が必要です。

上記機能を使用する場合、PDFコンバータXP、および、PDFオートコンバータEX に関連する手順は実施してください。

注意

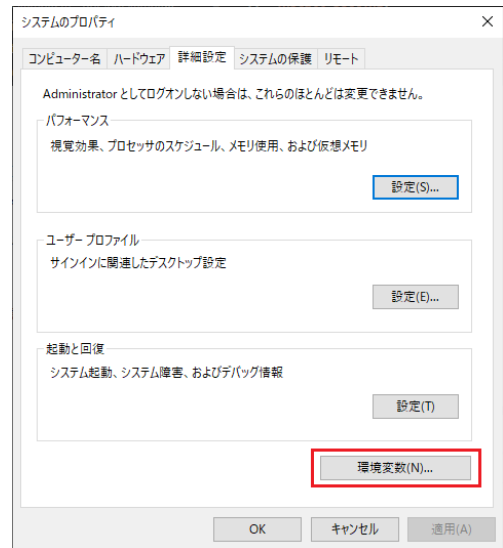
HTML→PDF変換 は、連携エンジン HTMLtoPDF が必要です。

上記機能を使用する場合、HTMLtoPDF に関連する手順は実施してください。

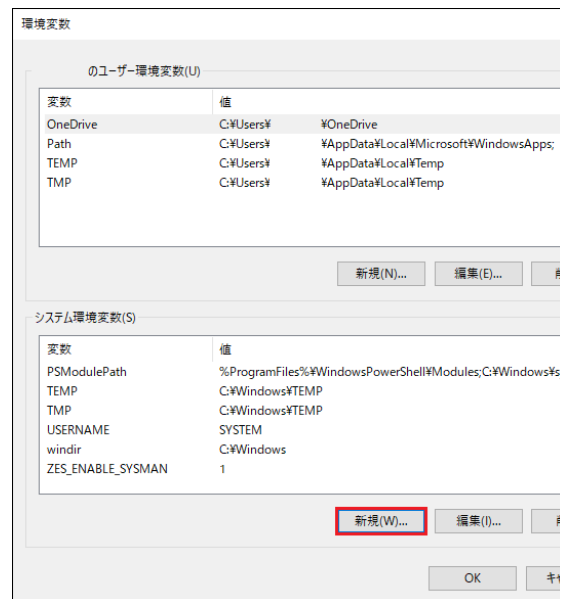
intra-mart Accel Platform

凡例

- 必須・・・セットアップが必要な項目です。
- 任意・・・セットアップをスキップする事ができる項目です。

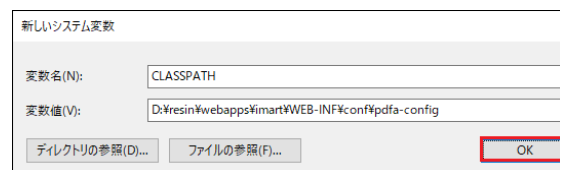


3. 「環境変数」画面が表示されるので、「システム環境変数」-「新規」。

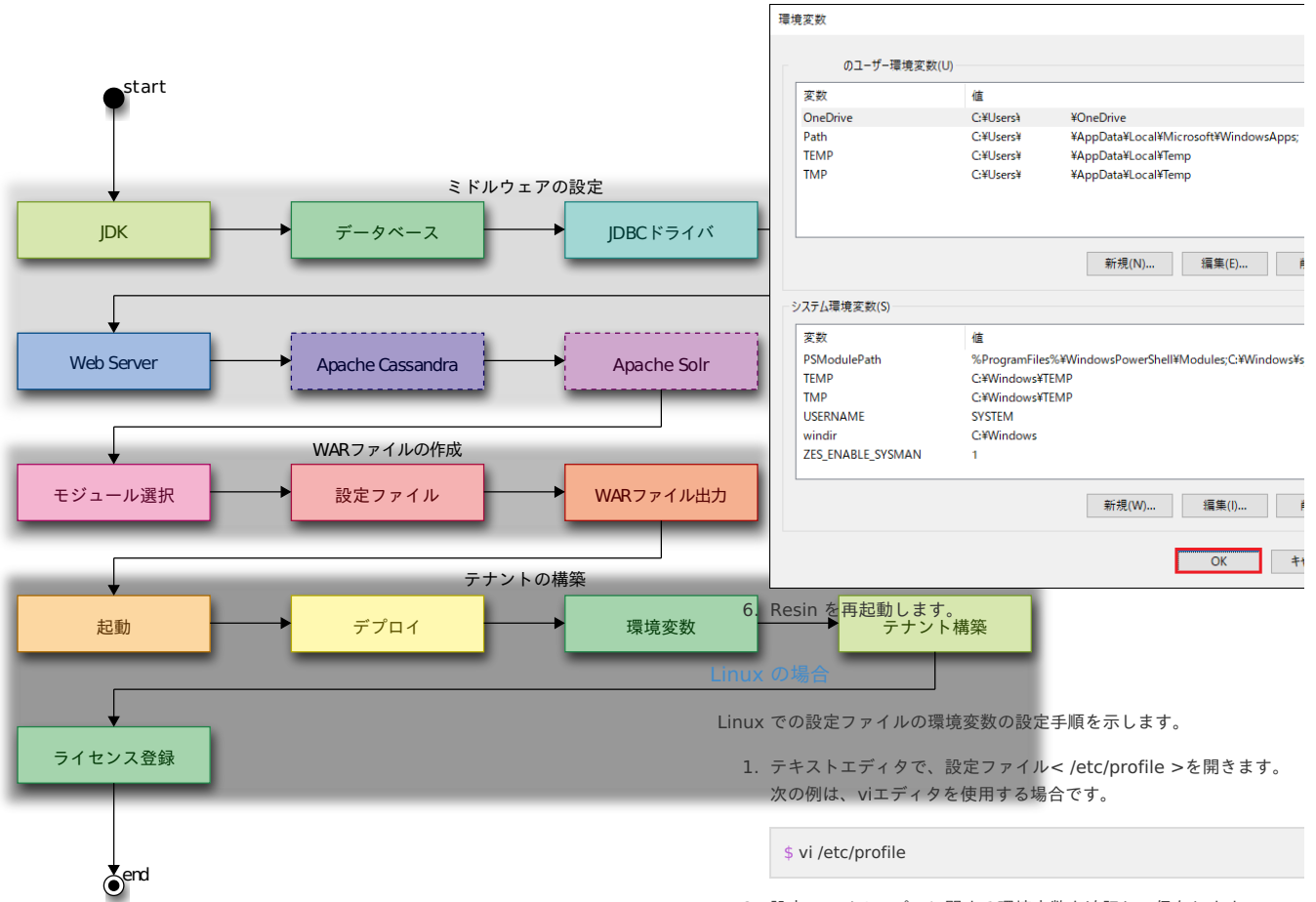


4. 「新しいシステム変数」画面が表示されるので、設定ファイルのパスし、「OK」をクリックします。

変数名	変数値
CLASSPATH	%RESIN_HOME%/webapps/{warファイルと同名}INF/conf/pdfa-config



5. 「OK」をクリックします。



Name	Description
start	
JDK	JDK
データベース	データベース
JDBCドライバ	JDBCドライバ
Application Server	Web Application Server
Web Server	Web Server
Apache Cassandra	Apache Cassandra
Apache Solr	Apache Solr
モジュール選択	プロジェクトの作成とモジュールの選択 - アプリケーションの追加
設定ファイル	基盤の設定ファイル - 設定ファイルの追加・編集
WARファイル出力	WARファイルの出力 - WAR ファイルの出力・設置
起動	Web Application Server の起動・停止
デプロイ	WARファイルのデプロイ
環境変数	IM-PDFAutoConverter for Accel Platformの環境変数
テナント構築	テナント環境セットアップ
ライセンス登録	ライセンスの登録
end	

PDF変換サーバ

凡例

- 必須・・・セットアップが必要な項目です。

アプリケーションの削除

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform をアンインストールする手順:

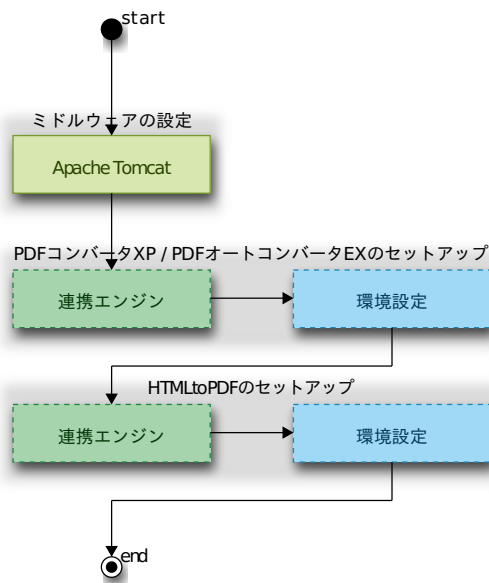
コラム

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform は、intra-mart Applicationです。

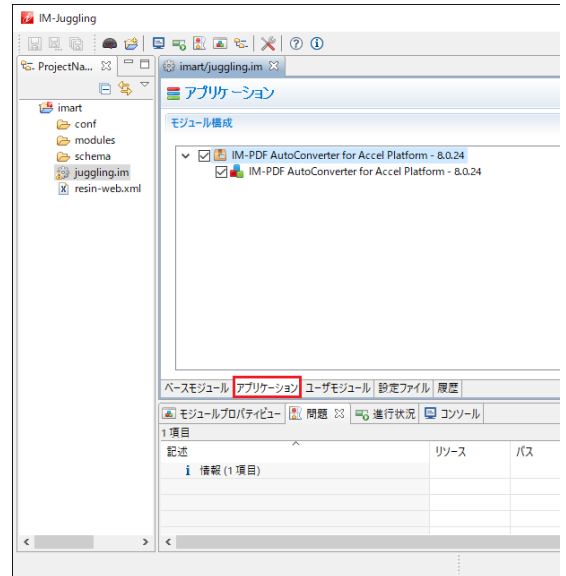
プロジェクト作成時にアプリケーションから IM-PDFAutoConverter for Accel Platform を除外することで、IM-PDFAutoConverter for Accel Platform

1. IM-Juggling でプロジェクトを開き、「juggling.im」 - 「アプリケー

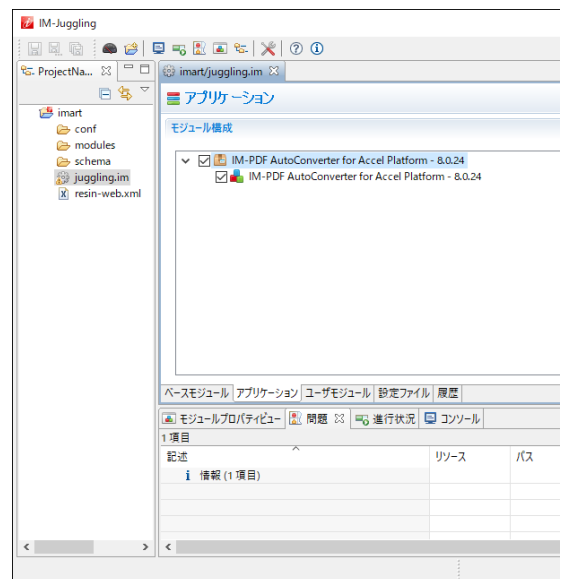
- 任意・・・セットアップをスキップする事ができる項目です。



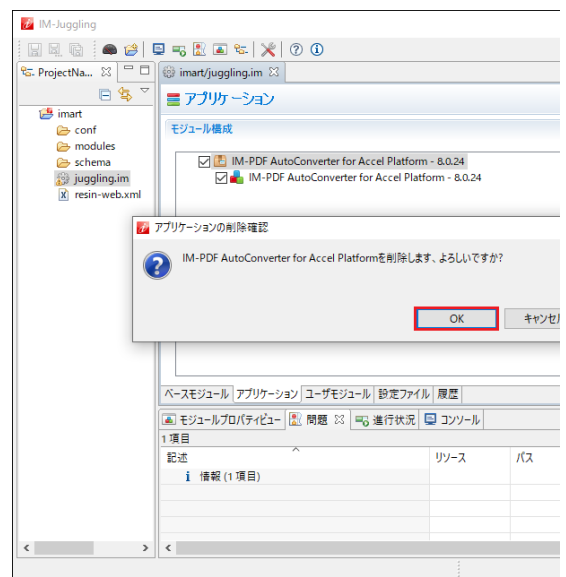
Name	Description
start	
Apache Tomcat	Apache Tomcat のセットアップ
連携エンジン	連携エンジン PDF コンバータXP のインストール 連携エンジン PDF オートコンバータEX のインストール
環境設定	環境設定
連携エンジン	連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ - 連携エンジン HTMLtoPDF のインストール Windows / Linux
環境設定	連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ - 環境設定 Windows / Linux
end	



2. 「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform」を選択し、「削除」。



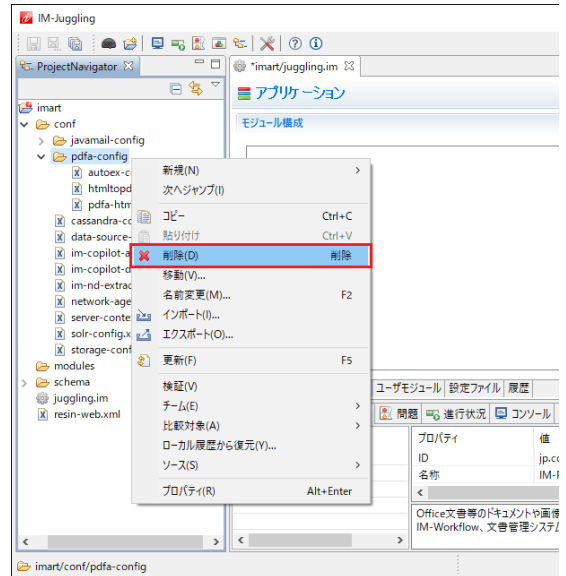
3. 削除の確認メッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。



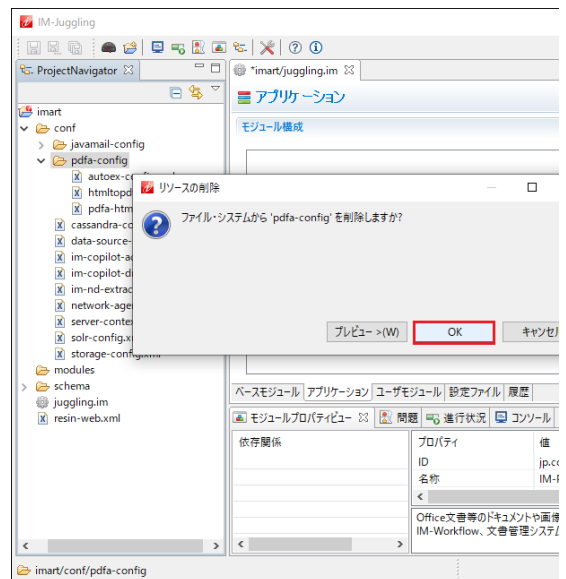
4. < conf >フォルダ配下に< pdfa-config >フォルダが出力されているフォルダを選択し、右クリック - 「削除」をクリックします。

ミドルウェアのセットアップを行います。

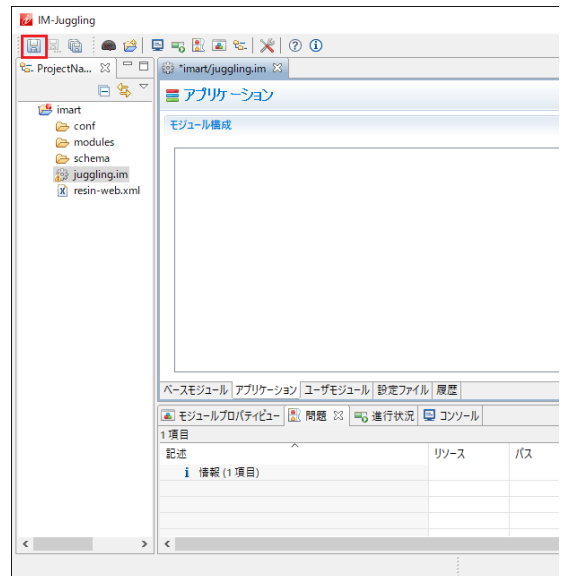
詳細は、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[intra-mart Accel Platform](#)を利用するためのミドルウェアのインストールと設定」を参照してください。



5. 削除の確認メッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。



6. 「保存」アイコンをクリックし、保存します。



7. 編集したプロジェクトのWARファイルの出力と設置を行います。



コラム

WARファイルの出力と設置方法については、「[WAR ファ](#)照してください。

スタンドアローン構成



注意
スタンドアローン構成は、HTML→PDF変換の機能のみ対応しています。

項目

- [連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ](#)
- [WARファイルの作成](#)
 - [アプリケーションの追加](#)
 - [設定ファイルの追加・編集](#)
 - [HTML→PDF変換 < htmltopdf-config.xml >](#)
 - [WARファイルの出力・設置](#)
- [環境変数](#)

連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ

Windows の場合

項目

- [連携エンジン HTMLtoPDF のインストール](#)
- [環境設定](#)
 - [環境変数](#)

連携エンジン HTMLtoPDF のインストール

連携エンジン HTMLtoPDF のインストール手順については、「[連携エンジン HTMLtoPDF のインストール](#)」を参照してください。

環境設定

Windows での 連携エンジン HTMLtoPDF の環境設定手順を示します。

環境変数

環境変数の設定手順については、「[環境変数](#)」を参照してください。

Linux の場合

項目

- [連携エンジン HTMLtoPDF のインストール](#)
- [環境設定](#)
 - [環境変数](#)
 - [Xvfb 起動](#)
 - [設定ファイルの編集](#)
 - [HTMLtoPDF < chromhtmltopdf_opt.txt >](#)

連携エンジン HTMLtoPDF のインストール

連携エンジン HTMLtoPDF のインストール手順については、「[連携エンジン HTMLtoPDF のインストール](#)」を参照してください。

環境設定

Linux での 連携エンジン HTMLtoPDF の環境設定手順を示します。

環境変数

環境変数の設定手順については、「[環境変数](#)」を参照してください。

Xvfb 起動

Xvfb の起動手順については、「[Xvfb 起動](#)」を参照してください。

設定ファイルの編集

[HTMLtoPDF < chromhtmltopdf_opt.txt >](#)

HTMLtoPDF の設定ファイル< chromhtmltopdf_opt.txt >の編集手順については、「[HTMLtoPDF < chromhtmltopdf_opt.txt >](#)」を参照してください。

項目

- [Windows の場合](#)
- [Linux の場合](#)

Windows の場合

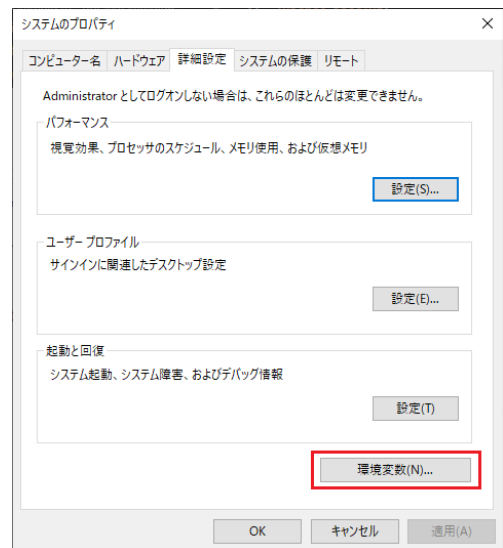
Windows での設定ファイルの環境変数の削除手順を示します。

1. 「コントロールパネル」 - 「システムとセキュリティ」 - 「システム」をクリックします。



注意
「システムのプロパティ」画面の表示方法は、OSにより異

2. 「システムのプロパティ」画面が表示されるので、「詳細設定」タ



3. 「環境変数」画面が表示されるので、「システム環境変数」から設

変数名	変数値
CLASSPATH	%RESIN_HOME%/webapps/{warファイルと同名 INF/conf/pdfa-config



注意
上記以外の変数値がCLASSPATHに設定されている場合、
ず、上記変数値のみ削除してください。

WARファイルの作成

アプリケーションの追加

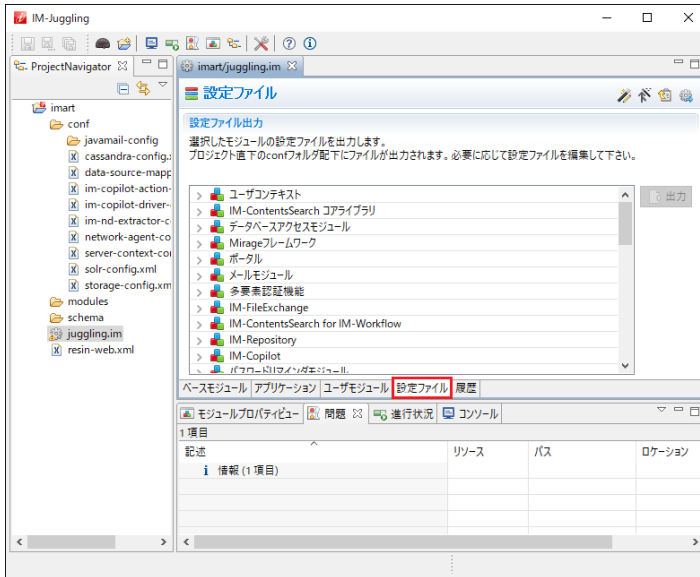
アプリケーションの追加手順については、「[アプリケーションの追加](#)」を参照してください。

設定ファイルの追加・編集

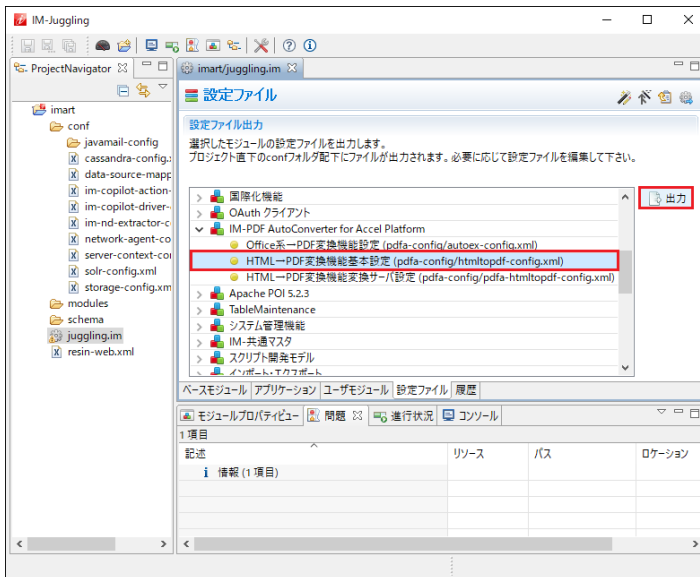
HTML→PDF変換 < htmltopdf-config.xml >

HTML→PDF変換 の設定ファイル< htmltopdf-config.xml >を追加し、編集する手順を示します。

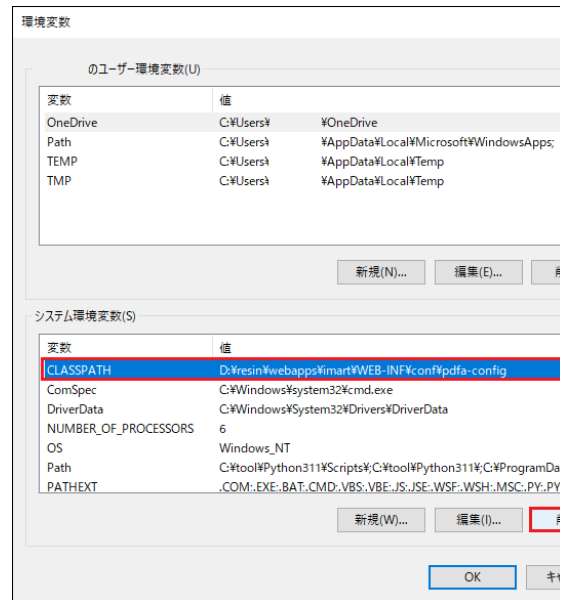
1. IM-Juggling でプロジェクトを開き、「設定ファイル」タブを表示します。



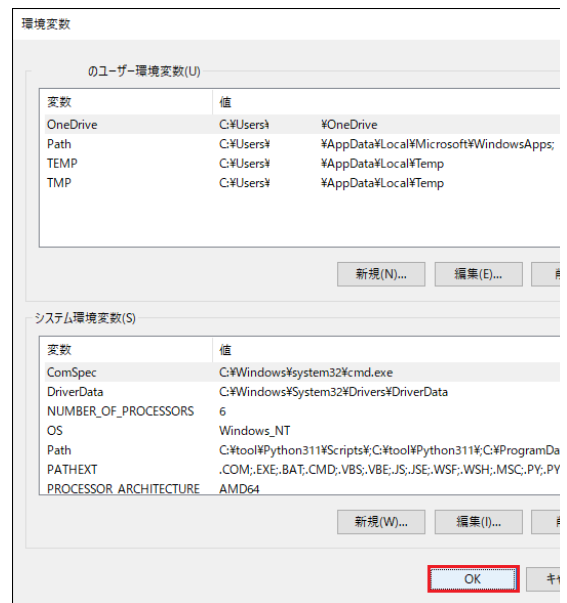
2. 「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform」-「HTML→PDF変換 機能基本設定」を選択し、「出力」をクリックします。



3. < conf/pdfa-config >フォルダ配下に、設定ファイル< htmltopdf-config.xml >が追加されます。



4. 「OK」をクリックします。



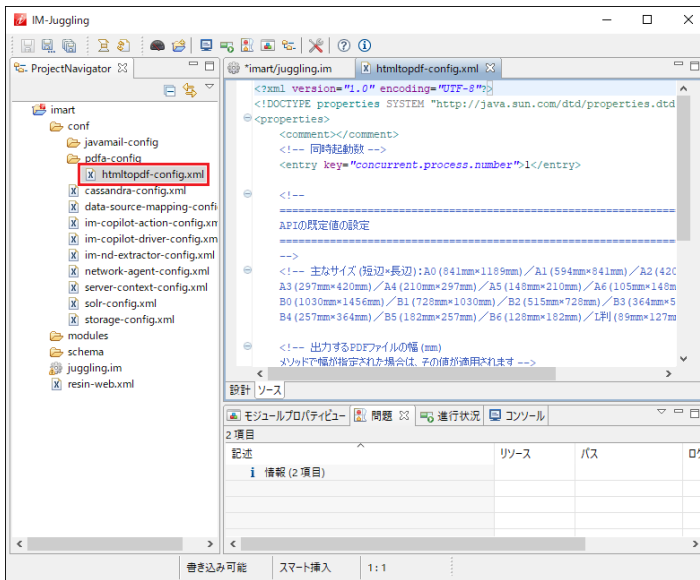
Linux の場合

Linux での設定ファイルの環境変数の削除手順を示します。

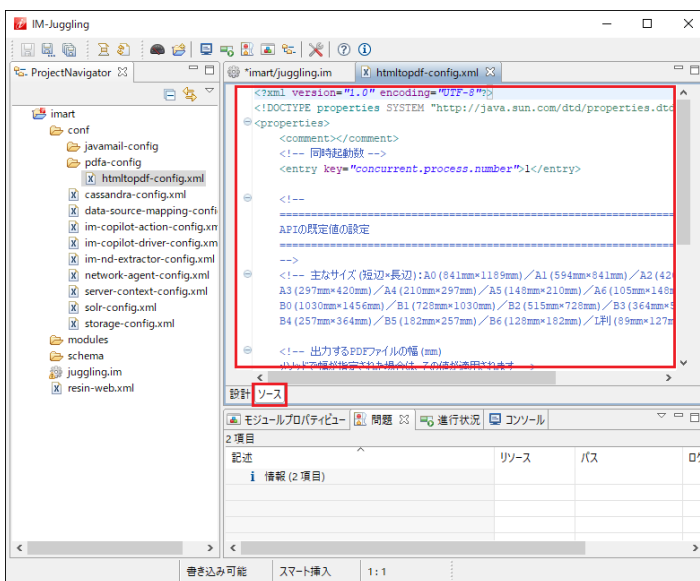
1. テキストエディタで、設定ファイル< /etc/profile >を開きます。
次の例は、viエディタを使用する場合です。

```
$ vi /etc/profile
```

2. 「環境変数」-「Linux の場合」で追記した、設定ファイルのパス除し、保存します。
3. Linux 環境に再ログインし、設定ファイル< /etc/profile >を読み込み



4. 「ソース」タブをクリックし、環境に合わせて設定を編集します。

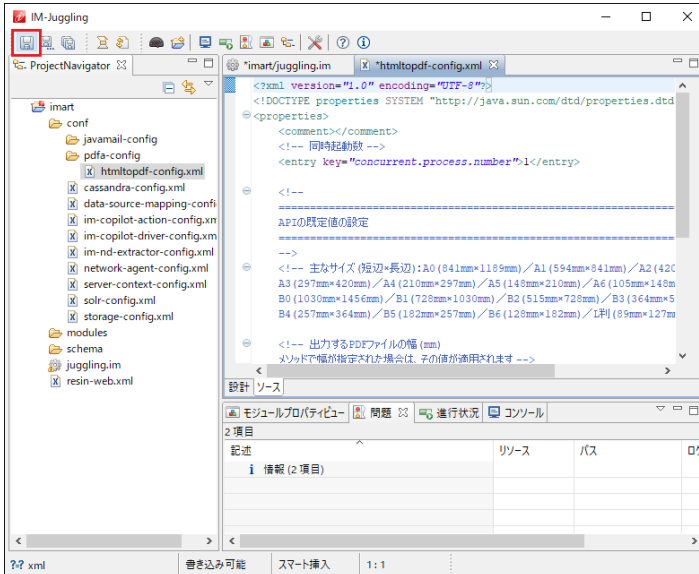


設定値は、次の通りです。

項目名	説明	必須/ 任意	初期値
<entry key="concurrent.process.number">	PDFへの変換処理を同時に起動できる数	任意	1
<entry key="paper.size.width">	出力するPDFファイルの幅の既定値(mm) プログラムにてサイズが設定された場合、そちらの設定が優先される	任意	210mm
<entry key="paper.size.height">	出力するPDFファイルの高さの既定値(mm) プログラムにてサイズが設定された場合、そちらの設定が優先される	任意	297mm
<entry key="wait.millisecond">	画面読み込み後、変換を行うまでの待機時間(ミリ秒) プログラムにて秒数が設定された場合、そちらの設定が優先される	任意	5000ミリ秒(5秒)

項目名	説明	必須/任意	初期値
<entry key="timeout.sec">	PDF変換が完了するまでの待機時間(秒) プログラムにて秒数が設定された場合、そちらの設定が優先される	任意	3600秒

5. 「保存」アイコンをクリックし、保存します。



WARファイルの出力・設置

WARファイルの出力・設置については、「[WARファイルの出力・設置](#)」を参照してください。

環境変数

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 用設定ファイルの環境変数の設定手順については、次を参照してください。

- Windows の場合
 - 「[環境変数](#)」 - 「[Windows の場合](#)」
- Linux の場合
 - 「[環境変数](#)」 - 「[Linux の場合](#)」

分散構成

intra-mart Accel Platform

intra-mart Accel Platform でのセットアップの手順を示します。

項目

- WARファイルの作成
 - アプリケーションの追加
 - 設定ファイルの追加・編集
 - PDFオートコンバータEX < autoex-config.xml >
 - HTML→PDF変換 < pdfa-htmltopdf-config.xml >
 - WARファイルの出力・設置
- 環境変数

WARファイルの作成

アプリケーションの追加

アプリケーションの追加手順については、「[アプリケーションの追加](#)」を参照してください。

設定ファイルの追加・編集

PDFオートコンバータEX < autoex-config.xml >

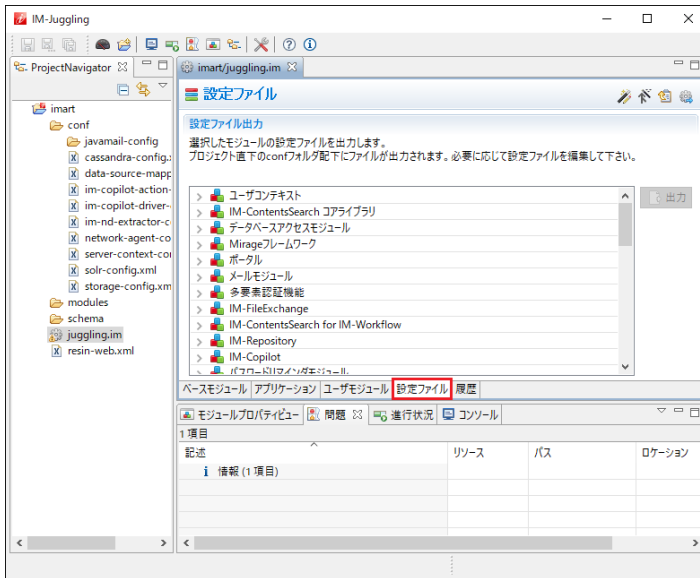
PDFオートコンバータEX の設定ファイル< autoex-config.xml >を追加し、編集する手順を示します。



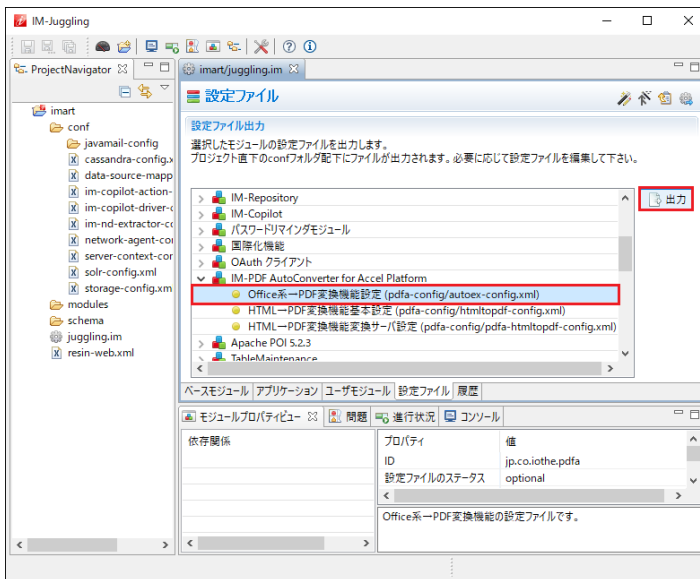
注意

Office系→PDF変換 を使用しない場合、手順は不要です。

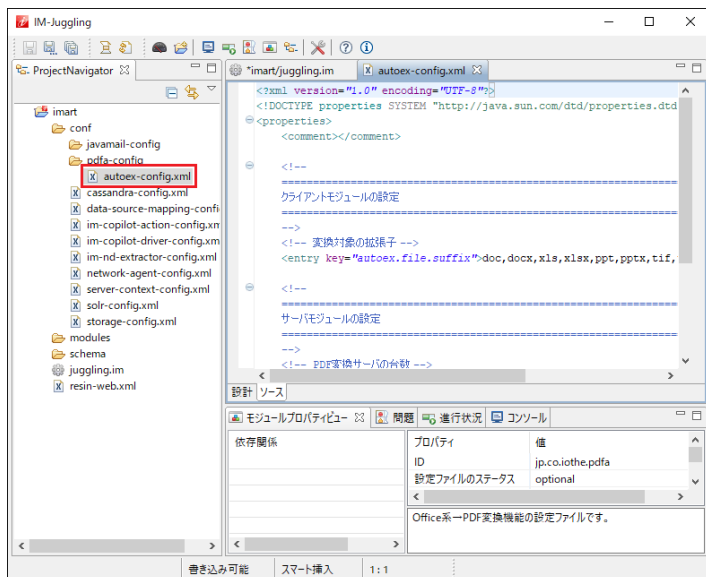
1. IM-Juggling でプロジェクトを開き、「設定ファイル」タブを表示します。



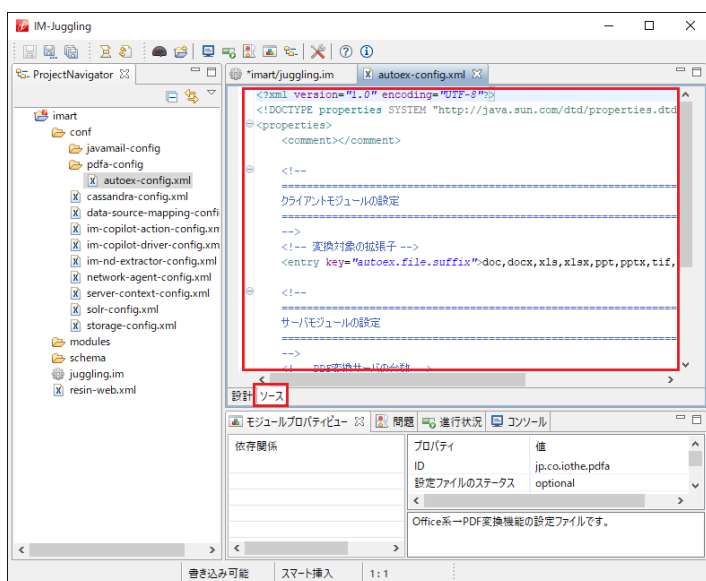
2. 「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform」- 「Office系→PDF変換 機能設定」を選択し、「出力」をクリックします。



3. < conf/pdfa-config >フォルダ配下に、設定ファイル< autoex-config.xml >が追加されます。



4. 「ソース」タブをクリックし、環境に合わせて設定を編集します。



次は、PDF変換サーバ 3台で運用する場合のサンプルです。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE properties SYSTEM "http://java.sun.com/dtd/properties.dtd">
<properties>
  <comment></comment>

  <!--

=====

クライアントモジュールの設定

=====

-->
<!-- 変換対象の拡張子 -->
<entry
key="autoex.file.suffix">doc,docx,xls,xlsx,ppt,pptx,tif,tiff,xdw,xbd,bmp,jpg,png,gif<

<!--

=====

サーバモジュールの設定

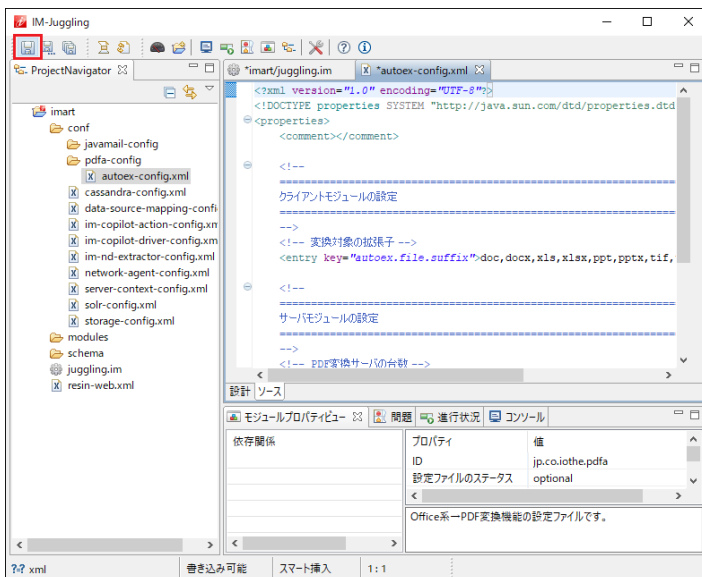
=====

-->
<!-- PDF変換サーバの台数 -->
<entry key="autoex.num">3</entry>

<!-- 1台目のサーバの設定 -->
<!-- PDF変換サーバのIPアドレスまたはホスト名 + ポート番号 -->
<entry key="autoex.1.host">192.168.0.1:8080</entry>
<entry key="autoex.2.host">192.168.0.2:8080</entry>
<entry key="autoex.3.host">192.168.0.2:8080</entry>

<!-- PDF変換サーバへの接続のリトライ回数 -->
<entry key="autoex.retry">3</entry>
</properties>
```

5. 「保存」アイコンをクリックし、保存します。



HTML→PDF変換 < pdfa-htmltopdf-config.xml >

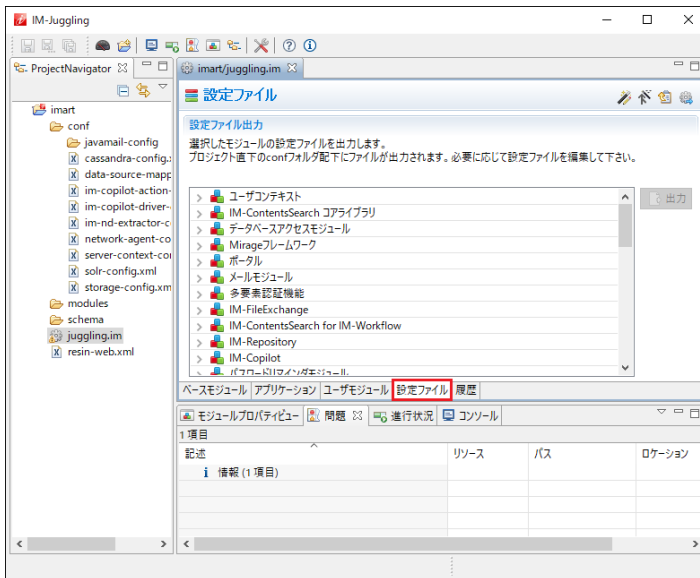
HTML→PDF変換 の設定ファイル< pdfa-htmltopdf-config.xml >を追加し、編集する手順を示します。



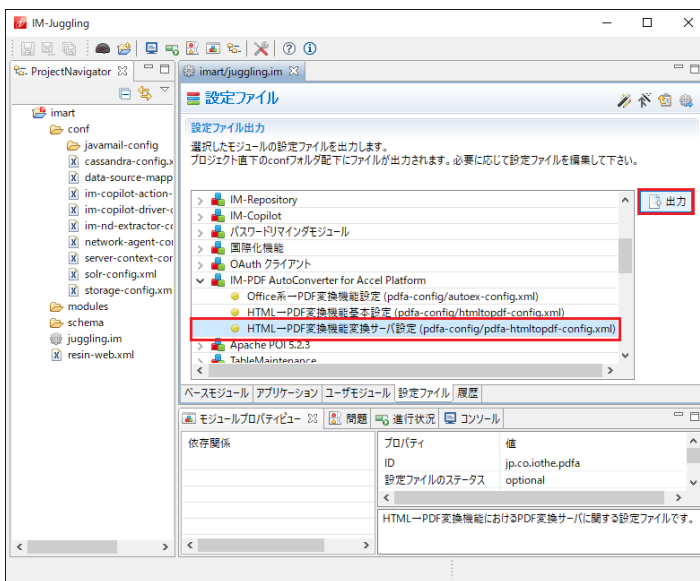
注意

HTML→PDF変換 を使用しない場合、手順は不要です。

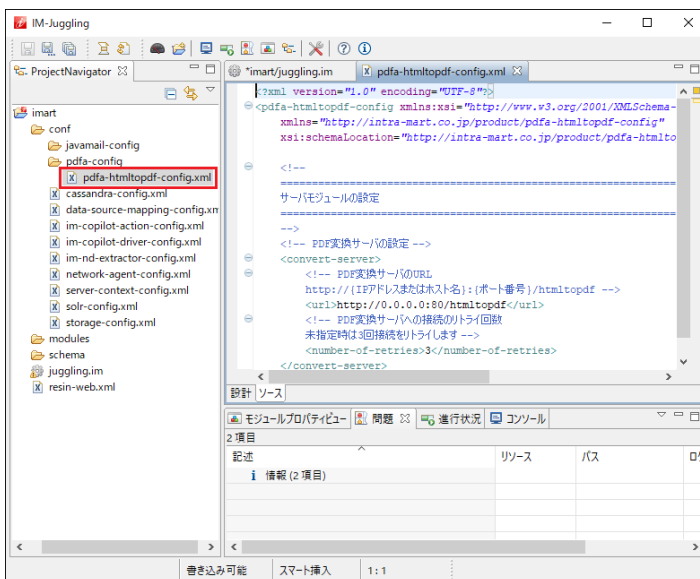
1. IM-Juggling でプロジェクトを開き、「設定ファイル」タブを表示します。



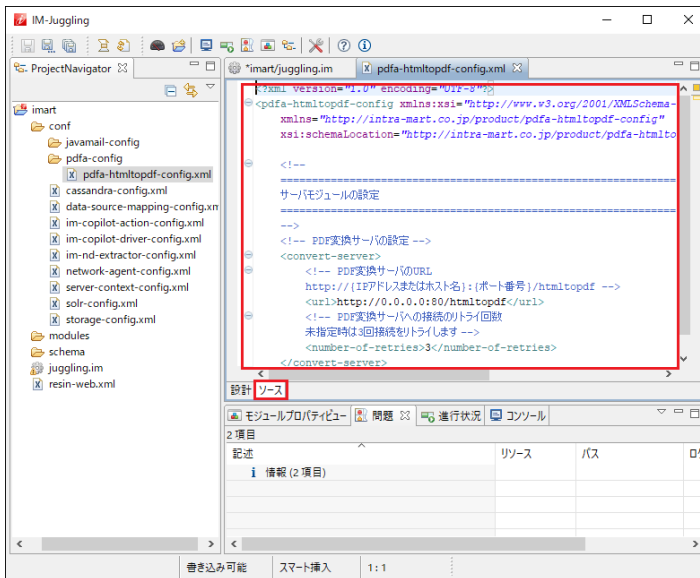
2. 「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform」-「HTML→PDF変換 機能変換サーバ設定」を選択し、「出力」をクリックします。



3. < conf/pdfa-config >フォルダ配下に、設定ファイル< pdfa-htmltopdf-config.xml >が追加されます。



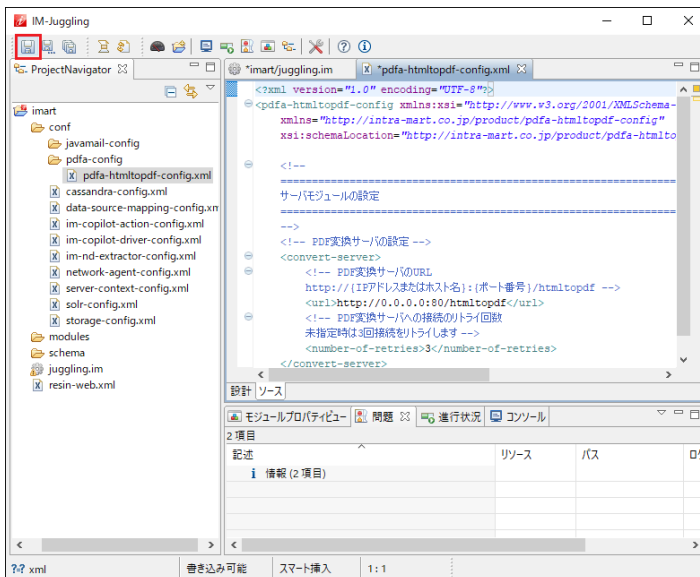
4. 「ソース」タブをクリックし、環境に合わせて設定を編集します。



設定値は、次の通りです。

項目名	説明	必須/ 任意	初期値
<convert-server>	PDF変換サーバに関する設定	必須	—
/<url>	PDF変換サーバのアドレス	必須	http://0.0.0.0:80/htmltopdf
/<number-of-retries>	PDF変換サーバへの接続のリトライ回数	任意	3

5. 「保存」アイコンをクリックし、保存します。



WARファイルの出力・設置

WARファイルの出力・設置については、「[WARファイルの出力・設置](#)」を参照してください。

環境変数

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 用設定ファイルの環境変数の設定手順については、次を参照してください。

- Windows の場合
 - 「[環境変数](#)」 - 「[Windows の場合](#)」
- Linux の場合
 - 「[環境変数](#)」 - 「[Linux の場合](#)」

PDF変換サーバ

PDF変換サーバでのセットアップの手順を示します。

！ 注意

複数台の PDF変換サーバ を運用する場合は、全ての PDF変換サーバ に対してセットアップを行ってください。

！ 注意

環境設定は、Apache Tomcat の起動ユーザで行ってください。

環境設定を行ったユーザと、Apache Tomcat の起動ユーザが異なる場合、正常に動作しません。

項目

- Apache Tomcat のセットアップ
 - JDK のインストール
 - Apache Tomcat のインストール
- 連携エンジン PDFコンバータXP のインストール
- 連携エンジン PDFオートコンバータEX のセットアップ
- 連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ

Apache Tomcat のセットアップ

Apache Tomcat の構築手順を示します。

Apache Tomcat は PDF変換サーバ に構築します。

JDK のインストール

1. PDF変換サーバ に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインします。
2. JDK をインストールします。

！ 注意

インストールする JDK のバージョンについては、「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform リリースノート」-「PDF変換サーバ」を確認してください。

！ 注意

PDF変換サーバ で使用する JDK のバージョンは、intra-mart Accel Platform で使用する JDK のバージョンと揃えてください。

i コラム

次のサイトから JDK のダウンロード、および、インストール手順の確認ができます。

<https://www.oracle.com/java/technologies/downloads/> (2023年 5月 現在)

Apache Tomcat のインストール

1. PDF変換サーバ に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインします。
2. Apache Tomcat をインストールします。

！ 注意

インストールする Apache Tomcat のバージョンについては、「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform リリースノート」-「PDF変換サーバ」を確認してください。

Apache Tomcat は、上記システム要件の、最新のマイナーバージョンを使用してください。

！ 注意

他のプロセスとポート番号が重複しないように設定してください。

コラム

次のサイトから Apache Tomcat のダウンロード、および、インストール手順の確認ができます。

<http://tomcat.apache.org/>（2021年 4月 現在）

連携エンジン PDFコンバータXP のインストール

連携エンジン PDFコンバータXP のインストール手順を示します。

注意

Office系→PDF変換 を使用しない場合、手順は不要です。

注意

Windows Server 2025 の場合、「Windows で保護された印刷モード」を無効にする必要があります。

「Windows で保護された印刷モード」を有効にすると、連携エンジン PDFコンバータXP をインストールすることができません。

また、既にインストール済みの 連携エンジン PDFコンバータXP は削除されます。

一度モードを有効にすると、無効にしても 連携エンジン PDFコンバータXP は削除されたままです。

再度利用するには「Windows で保護された印刷モード」を無効にした後、連携エンジン PDFコンバータXP を再インストールしてください。

1. PDF変換サーバ に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. 「PDFコンバータXP インストール・ガイド」-「1章. インストール」に沿って、インストールしてください。

注意

UACの監視下にあるディレクトリにインストールした場合、ディレクトリの読み書きにおいて制限を受ける可能性があります。

そのため、PDFコンバータXP のインストール先に、Program Files等UACの監視下にあるディレクトリは避けてください。

インストール先の例は、次の通りです。

```
C:\tool\PDFconverter\
```

3. PDF変換サーバ を再起動してください。

連携エンジン PDFオートコンバータEX のセットアップ

連携エンジン PDFオートコンバータEX のインストール

連携エンジン PDFオートコンバータEX のインストール手順を示します。

1. PDF変換サーバ に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. 「PDFオートコンバータEX インストール・ガイド」-「5.1. PDF オートコンバータ EX のインストール」に沿って、インストールしてください。

注意

UACの監視下にあるディレクトリにインストールした場合、ディレクトリの読み書きにおいて制限を受ける可能性があります。

そのため、PDFオートコンバータEX のインストール先に、Program Files等UACの監視下にあるディレクトリは避けてください。

インストール先の例は、次の通りです。

```
C:\tool\AutoConverterEX\
```



注意

異なるバージョンの、PDFオートコンバータEX がインストールされている環境では、インストール前に次のフォルダを削除してください。

C:/YSS_Settings/Auto Converter EX

上記フォルダは隠しフォルダとなっているため、フォルダ名を直接入力し削除ください。

3. PDF変換サーバ を再起動してください。

環境設定

連携エンジン PDFオートコンバータEX の環境設定手順を示します。

項目

- [連携エンジン PDFオートコンバータEX の環境設定](#)
- [環境変数](#)
- [連携エンジン PDFオートコンバータEX のサービス起動](#)
- [JARファイル設置](#)
- [WARファイルのデプロイ](#)
- [設定ファイルの編集](#)
 - [PDFオートコンバータEX < axis2.xml >](#)

連携エンジン PDFオートコンバータEX の環境設定

「PDFオートコンバータEX インストール・ガイド」の次の章の設定をしてください。

- 「【重要】WindowsServer xxxxx における必須の設定」
- 「共通で設定したほうが良い事項（推奨）」
- 「アプリごとの変換に必要な設定（必須）」

環境変数

Windows での 連携エンジン PDFオートコンバータEX の環境変数の設定手順を示します。

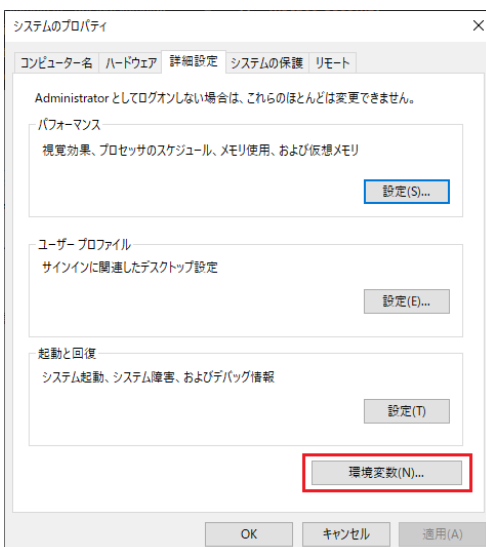
1. 「コントロールパネル」-「システムとセキュリティ」-「システム」-「システムの詳細設定」をクリックします。



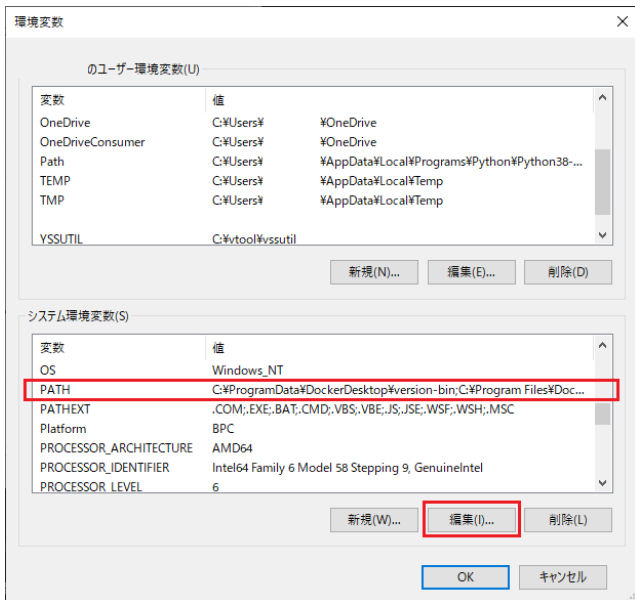
注意

「システムのプロパティ」画面の表示方法は、OSにより異なります。

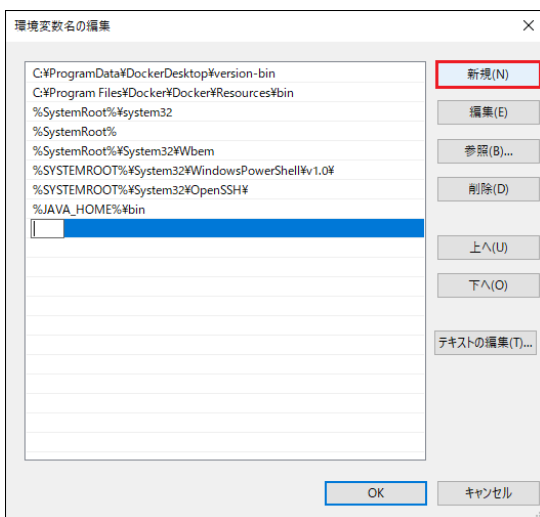
2. 「システムのプロパティ」画面が表示されるので、「詳細設定」タブ-「環境変数」をクリックします。



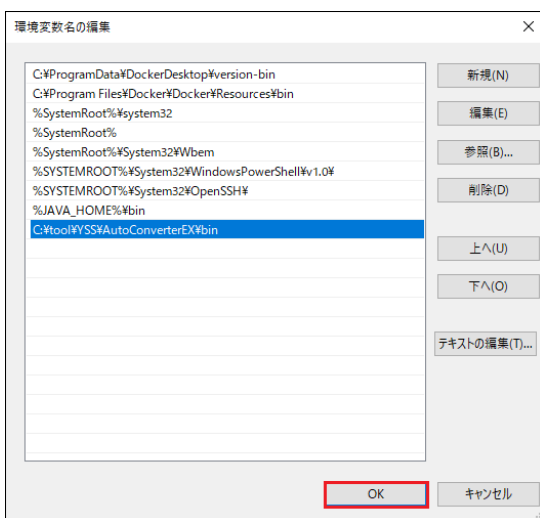
3. 「環境変数」画面が表示されるので、「システム環境変数」-「PATH」を選択し、「編集」をクリックします。



4. 「環境変数名の編集」画面が表示されるので、「新規」をクリックします。



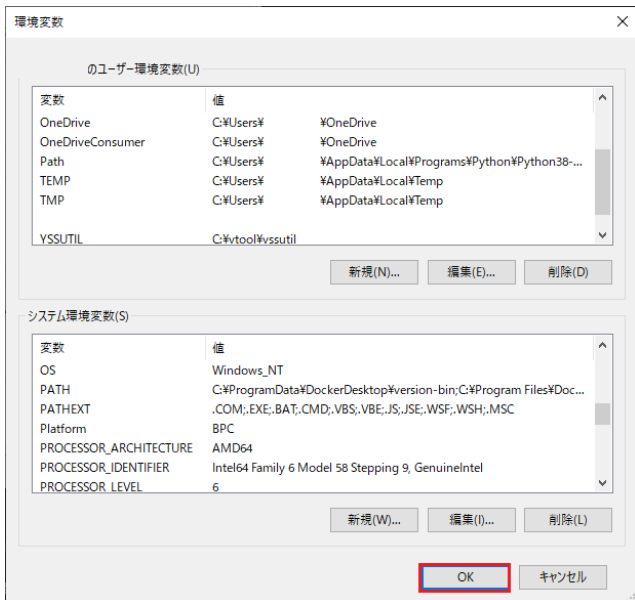
5. < % PDFオートコンバータEX のインストールフォルダ% /bin >のパスを入力し、「OK」をクリックします。



注意

IM-PDFCoordinator for Accel Platform の、連携エンジン PDFメイクアップの環境変数が既に設定されている場合は、それよりも下に 連携エンジン PDFオートコンバータEX の環境変数を設定してください。

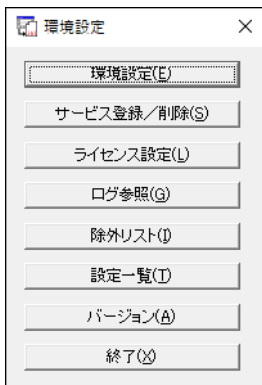
6. 「OK」をクリックします。



7. コマンドプロンプトを起動し、次のコマンドを実行します。

```
> yxset
```

8. 次の画面が表示されれば、環境変数の設定は完了です。



連携エンジン PDFオートコンバータEX のサービス起動

次の全ての条件に該当する場合は、連携エンジン PDFオートコンバータEX のサービス起動が必要です。

- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2025 Spring 以降のバージョンで変換する
- 変換対象のファイルに外字が含まれている

また、IM-PDFAutoConverter for Accel Platform のバージョンによって、起動対象のサービスが次のように異なります。

- 2025 Spring

起動対象のサービスは「YSS Auto Converter EX」です。

サービス起動の手順については、「[PDFオートコンバータEX インストール・ガイド](#)」 - 「14.2. サービス変換」を参照してください。

- 2025 Autumn 以降

起動対象のサービスは「YSS Auto Converter EX(EUDC)」です。

サービス起動の手順については、「[PDFオートコンバータEX インストール・ガイド](#)」 - 「6.7.PDFフォントファイルのフォント埋め込み」の(4)～(11)を参照してください。



注意

サービスが自動で起動されるように、サービスのスタートアップの種類を「自動」に設定してください。

JARファイル設置

JARファイルの設置手順を示します。

1. Apache Tomcat を停止させます。
2. PDFオートコンバータEX のJARファイル< lib/ autoex.jar >を、<

%CATALINA_HOME%/lib >に設置します。

3. Apache Tomcat を再起動させます。

WARファイルのデプロイ

WARファイルのデプロイの手順を示します。

1. Apache Tomcat を停止させます。
2. PDFオートコンバータEX のWARファイル< autoexsoap.war >を、< %CATALINA_HOME%/webapps >に設置します。
3. 設置したWARファイル< autoexsoap.war >を、< axis2.war >にリネームします。
4. Apache Tomcat を再起動させます。

設定ファイルの編集

PDFオートコンバータEX < axis2.xml >

PDFオートコンバータEX の設定ファイル< axis2.xml >を編集する手順を示します。

1. PDF変換サーバ に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. PDFオートコンバータEX の設定ファイル< axis2.xml >を環境に合わせて編集し、保存してください。

ファイル	場所
axis2.xml	%CATALINA_HOME%/webapps/axis2/WEB-INF/conf

attachmentDIR は、クライアントからアップロードされるファイルの一時保存先です。必ず指定する必要があります。

```
<axisconfig name="AxisJava2.0">
  ~~~~~省略~~~~~
  <!--Uncomment if you want to enable file caching for attachments -->
  <parameter name="cacheAttachments">true</parameter>
  <!-- 添付ファイル（クライアントからアップロードされるファイル）の一時保存先です。必ず指定してください -->
  <parameter name="attachmentDIR">C:\tmp</parameter>
  <parameter name="sizeThreshold">4000</parameter>
  ~~~~~省略~~~~~
</axisconfig>
```

3. Apache Tomcat を再起動してください。



注意

Office系→PDF変換 を使用しない場合、手順は不要です。

連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ

Windows の場合

項目

- 連携エンジン HTMLtoPDF のインストール
- 環境設定
 - 環境変数
 - WARファイル設置
 - 設定ファイルの編集
 - HTML→PDF変換 < htmltopdf-config.xml >

連携エンジン HTMLtoPDF のインストール

連携エンジン HTMLtoPDF のインストール手順については、「[連携エンジン HTMLtoPDF のインストール](#)」を参照してください。

環境設定

Windows での 連携エンジン HTMLtoPDF の環境設定手順を示します。

環境変数

環境変数の設定手順については、「[環境変数](#)」を参照してください。

WARファイル設置

WARファイルの設置手順を示します。

1. Apache Tomcat を停止させます。
2. HTML→PDF変換 のWARファイル< htmltopdf.war >を、< %CATALINA_HOME%/webapps >に設置します。
3. Apache Tomcat を再起動させます。

設定ファイルの編集

HTML→PDF変換 < htmltopdf-config.xml >

HTML→PDF変換 の設定ファイル< htmltopdf-config.xml >の編集手順については、「[HTML→PDF変換 < htmltopdf-config.xml >](#)」を参照してください。

Linux の場合

項目

- 連携エンジン HTMLtoPDF のインストール
- 環境設定
 - 環境変数
 - Xvfb 起動
 - WARファイル設置
 - 設定ファイルの編集
 - HTMLtoPDF < chromhtmltopdf_opt.txt >
 - HTML→PDF変換 < htmltopdf-config.xml >

連携エンジン HTMLtoPDF のインストール

連携エンジン HTMLtoPDF のインストール手順については、「[連携エンジン HTMLtoPDF のインストール](#)」を参照してください。

環境設定

Linux での 連携エンジン HTMLtoPDF の環境設定手順を示します。

環境変数

環境変数の設定手順については、「[環境変数](#)」を参照してください。

Xvfb 起動

Xvfb の起動手順については、「[Xvfb 起動](#)」を参照してください。

WARファイル設置

WARファイルの設置手順を示します。

1. Apache Tomcat を停止させます。
2. HTML→PDF変換 のWARファイル< htmltopdf.war >を、< %CATALINA_HOME%/webapps >に設置します。

```
$ cp [ディレクトリ]/server/htmltopdf.war %CATALINA_HOME%/webapps/
```

3. Apache Tomcat を再起動させます。

設定ファイルの編集

HTMLtoPDF < chromhtmltopdf_opt.txt >

HTMLtoPDF の設定ファイル< chromhtmltopdf_opt.txt >の編集手順については、「[HTMLtoPDF < chromhtmltopdf_opt.txt >](#)」を参照してください。

HTML→PDF変換 < htmltopdf-config.xml >

HTML→PDF変換 の設定ファイル< htmltopdf-config.xml >の編集手順については、「[HTML→PDF変換 < htmltopdf-config.xml >](#)」を参照してください。



注意

HTML→PDF変換 を使用しない場合、手順は不要です。



注意

分散構成 は、Office系→PDF変換 、および、 HTML→PDF変換 の両機能ともに対応しています。



注意

Office系→PDF変換 は、連携エンジン PDFコンバータXP、および、連携エンジン PDFオートコンバータEX が必要です。

上記機能を使用する場合、PDFコンバータXP、および、PDFオートコンバータEX に関連する手順は実施してください。



注意

HTML→PDF変換 は、連携エンジン HTMLtoPDF が必要です。

上記機能を使用する場合、HTMLtoPDF に関連する手順は実施してください。

ミドルウェア製品の起動・停止を行います。

詳細は、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[Web Application Server の起動・停止](#)」を参照してください。

デプロイを行います。

詳細は、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[WARファイルのデプロイ](#)」
を参照してください。

テナント環境セットアップについては、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[テナント環境セットアップ](#)」を参照してください。



注意

WARファイルに含まれているモジュールにより、
テナント環境セットアップにて表示されるウィザードの順序が変わります。

ライセンスの登録を行います。

詳細は、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[ライセンスの登録](#)」を参照してください。

IM-Juggling を利用して最新モジュールの適用や、モジュール構成を変更する事ができます。

詳細は、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[アップデート パッチの適用](#)」を参照してください。

アップデート

intra-mart Accel Platform 本体のアップデートについては、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[アップデートの適用](#)」を参照してください。

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform のアップデートについては、次を参照してください。

スタンドアローン構成

項目

- [連携エンジン HTMLtoPDF の再セットアップ](#)
- [WARファイルの作成](#)
- [環境変数](#)

[連携エンジン HTMLtoPDF の再セットアップ](#)

Windows の場合

連携エンジン HTMLtoPDF の再セットアップ

Windows での 連携エンジン HTMLtoPDF の再セットアップ手順を示します。

1. 「[連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール](#)」-「[Windows の場合](#)」を参照し、既存環境から HTMLtoPDF をアンインストールしてください。
2. 「[連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ](#)」-「[Windows の場合](#)」を参照し、アップデート対象の HTMLtoPDF をセットアップしてください。

Linux の場合

連携エンジン HTMLtoPDF の再セットアップ

Linux での 連携エンジン HTMLtoPDF の再セットアップ手順を示します。

1. 「[連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール](#)」-「[Linux の場合](#)」を参照し、既存環境から HTMLtoPDF をアンインストールしてください。
2. 「[連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ](#)」-「[Linux の場合](#)」を参照し、アップデート対象の HTMLtoPDF をセットアップしてください。

[WARファイルの作成](#)

WARファイルの作成手順については、「[WARファイルの作成](#)」を参照してください。

[環境変数](#)

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 用設定ファイルの環境変数の設定手順については、次を参照してください。

- Windows の場合
 - 「[環境変数](#)」-「[Windows の場合](#)」
- Linux の場合
 - 「[環境変数](#)」-「[Linux の場合](#)」

分散構成

intra-mart Accel Platform

intra-mart Accel Platform での再セットアップの手順を示します。

項目

- [WARファイルの作成](#)
- [環境変数](#)

WARファイルの作成

WARファイルの作成手順については、「[WAR ファイルの作成](#)」を参照してください。

環境変数

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 用設定ファイルの環境変数の設定手順については、次を参照してください。

- Windows の場合
 - 「[環境変数](#)」 - 「[Windows の場合](#)」
- Linux の場合
 - 「[環境変数](#)」 - 「[Linux の場合](#)」

PDF変換サーバ

PDF変換サーバ での再セットアップの手順を示します。



注意

複数台の PDF変換サーバ を運用する場合は、全ての PDF変換サーバ に対して再セットアップを行ってください。



注意

環境設定は、Apache Tomcat の起動ユーザで行ってください。

環境設定を行ったユーザと、Apache Tomcat の起動ユーザが異なる場合、正常に動作しません。

項目

- [Apache Tomcat の再セットアップ](#)
 - [JDK の再インストール](#)
 - [Apache Tomcat の再インストール](#)
- [連携エンジン PDFコンバータXP の再インストール](#)
- [連携エンジン PDFオートコンバータEX の再セットアップ](#)
- [連携エンジン HTMLtoPDF の再セットアップ](#)

Apache Tomcat の再セットアップ

Apache Tomcat の再構築手順を示します。

Apache Tomcat は PDF変換サーバ に構築します。

JDK の再インストール

1. 「[JDK のアンインストール](#)」を参照し、既存環境から JDK をアンインストールしてください。
2. 「[JDK のインストール](#)」を参照し、アップデート対象の JDK をインストールしてください。

Apache Tomcat の再インストール

1. 「[Apache Tomcat のアンインストール](#)」を参照し、既存環境から Apache Tomcat をアンインストールしてください。
2. 「[Apache Tomcat のインストール](#)」を参照し、アップデート対象の Apache Tomcat をインストールしてください。

連携エンジン PDFコンバータXP の再インストール

連携エンジン PDFコンバータXP の再インストール手順を示します。



注意

Office系→PDF変換 を使用しない場合、手順は不要です。

1. 「[連携エンジン PDFコンバータXP のアンインストール](#)」を参照し、既存環境から 連携エンジン PDFコンバータXP をアンインストールしてください。
2. 「[連携エンジン PDFコンバータXP のインストール](#)」を参照し、アップデート対象の 連携エンジン PDFコンバータXP をセットアップしてください。

連携エンジン PDFオートコンバータEX の再セットアップ

連携エンジン PDFオートコンバータEX の再セットアップ手順を示します。

注意

Office系→PDF変換 を使用しない場合、手順は不要です。

1. 「[連携エンジン PDFオートコンバータEX のアンインストール](#)」を参照し、既存環境から連携エンジン PDFオートコンバータEX をアンインストールしてください。
2. 「[連携エンジン PDFオートコンバータEX のセットアップ](#)」を参照し、アップデート対象の連携エンジン PDFオートコンバータEX をセットアップしてください。

連携エンジン HTMLtoPDF の再セットアップ

Windows の場合

連携エンジン HTMLtoPDF の再セットアップ

Windows での 連携エンジン HTMLtoPDF の再セットアップ手順を示します。

1. 「[連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール](#)」-「[Windows の場合](#)」を参照し、既存環境から HTMLtoPDF をアンインストールしてください。
2. 「[連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ](#)」-「[Windows の場合](#)」を参照し、アップデート対象の HTMLtoPDF をセットアップしてください。

Linux の場合

連携エンジン HTMLtoPDF の再セットアップ

Linux での 連携エンジン HTMLtoPDF の再セットアップ手順を示します。

1. 「[連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール](#)」-「[Linux の場合](#)」を参照し、既存環境から HTMLtoPDF をアンインストールしてください。
2. 「[連携エンジン HTMLtoPDF のセットアップ](#)」-「[Linux の場合](#)」を参照し、アップデート対象の HTMLtoPDF をセットアップしてください。

注意

HTML→PDF変換 を使用しない場合、手順は不要です。

注意

Office系→PDF変換 は、連携エンジン PDFコンバータXP、および、連携エンジン PDFオートコンバータEX が必要です。

上記機能を使用する場合、PDFコンバータXP、および、PDFオートコンバータEX に関連する手順は実施してください。

注意

HTML→PDF変換 は、連携エンジン HTMLtoPDF が必要です。

上記機能を使用する場合、HTMLtoPDF に関連する手順は実施してください。

注意

Office系→PDF変換 は [分散構成](#) のみ対応しています。 [スタンドアローン構成](#) は対応していません。

コラム

HTML→PDF変換 は [スタンドアローン構成](#) と [分散構成](#) に対応しています。

パッチ

パッチの適用については、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[パッチの適用](#)」を参照してください。

モジュール構成の変更

モジュール構成の変更については、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[モジュール構成の変更](#)」を参照してください。

スタンドアローン構成

項目

- [アプリケーションの削除](#)
- [環境変数の削除](#)
- [連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール](#)

アプリケーションの削除

アプリケーションの削除手順については、「[アプリケーションの削除](#)」を参照してください。

環境変数の削除

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 用設定ファイルの環境変数の削除手順については、次を参照してください。

- Windows の場合
 - 「[環境変数の削除](#)」 - 「[Windows の場合](#)」
- Linux の場合
 - 「[環境変数の削除](#)」 - 「[Linux の場合](#)」

連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール

Windows の場合

連携エンジン HTMLtoPDF をアンインストールする手順を示します。

連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール

連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール手順については、「[連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール](#)」を参照してください。

環境変数の削除

環境変数の削除手順については、「[環境変数の削除](#)」を参照してください。

Linux の場合

連携エンジン HTMLtoPDF をアンインストールする手順を示します。

連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール

連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール手順については、「[連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール](#)」を参照してください。

環境変数の削除

環境変数の削除手順については、「[環境変数の削除](#)」を参照してください。

分散構成

項目

- [intra-mart Accel Platform](#)
 - [アプリケーションの削除](#)
 - [環境変数の削除](#)
- [PDF変換サーバ](#)
 - [連携エンジン PDFコンバータXP のアンインストール](#)
 - [連携エンジン PDFオートコンバータEX のアンインストール](#)
 - [連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール](#)
 - [JDK のアンインストール](#)
 - [Apache Tomcat のアンインストール](#)

intra-mart Accel Platform

intra-mart Accel Platform でのアンインストールの手順を示します。

アプリケーションの削除

アプリケーションの削除手順については、「[アプリケーションの削除](#)」を参照してください。

環境変数の削除

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 用設定ファイルの環境変数の削除手順については、次を参照してください。

- Windows の場合
 - 「[環境変数の削除](#)」 - 「[Windows の場合](#)」
- Linux の場合
 - 「[環境変数の削除](#)」 - 「[Linux の場合](#)」

PDF変換サーバ

PDF変換サーバ でのアンインストールの手順を示します。



注意
複数台の PDF変換サーバ を運用する場合は、全ての PDF変換サーバ に対してアンインストールを行ってください。



注意
環境設定は、Apache Tomcat の起動ユーザで行ってください。

環境設定を行ったユーザと、Apache Tomcat の起動ユーザが異なる場合、正常に動作しません。

連携エンジン PDFコンバータXP のアンインストール

連携エンジン PDFコンバータXP のアンインストール手順を示します。



注意
連携エンジン PDFコンバータXP をインストールしていない場合、手順は不要です。

1. PDF変換サーバ に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. 「[PDFコンバータXP インストール・ガイド](#)」 - 「5章. アンインストール」に沿って、アンインストールしてください。
3. PDF変換サーバ を再起動してください。

連携エンジン PDFオートコンバータEX のアンインストール

連携エンジン PDFオートコンバータEX のアンインストール

連携エンジン PDFオートコンバータEX のアンインストール手順を示します。

1. PDF変換サーバ に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. 「[PDFオートコンバータEX インストール・ガイド](#)」 - 「15章. アンインストールの方法」に沿って、アンインストールしてください。
3. PDF変換サーバ を再起動してください。

環境変数の削除

Windows での 連携エンジン PDFオートコンバータEX の環境変数の削除手順を示します。

1. 「コントロールパネル」 - 「システムとセキュリティ」 - 「システム」 - 「システムの詳細設定」をクリックします。

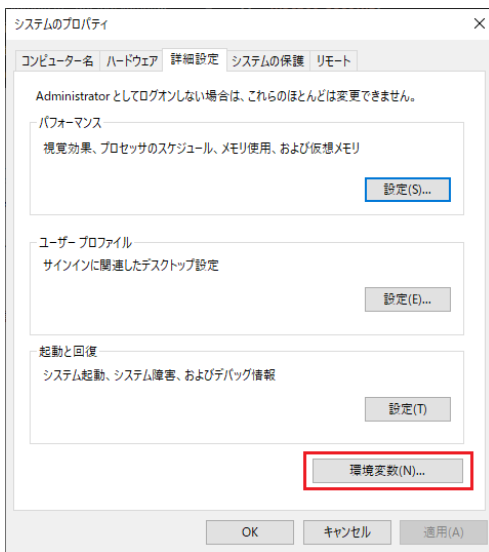




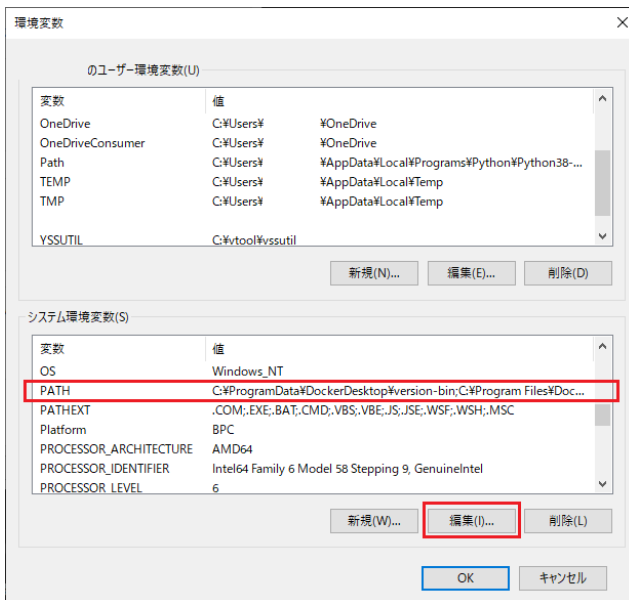
注意

「システムのプロパティ」画面の表示方法は、OSにより異なります。

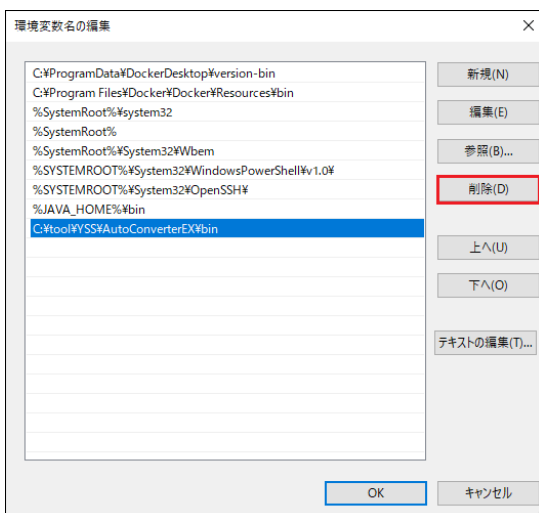
2. 「システムのプロパティ」画面が表示されるので、「詳細設定」タブ-「環境変数」をクリックします。



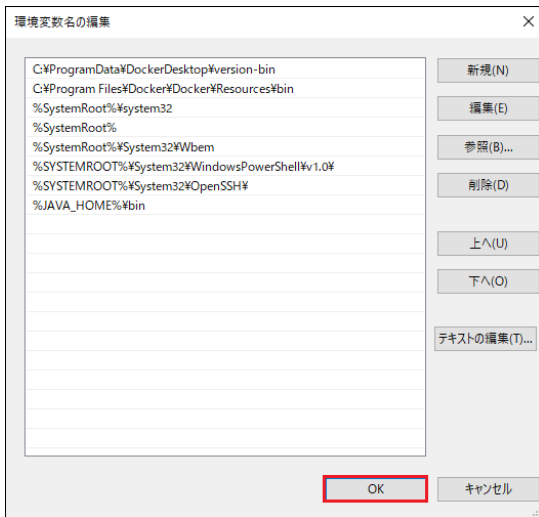
3. 「環境変数」画面が表示されるので、「システム環境変数」-「PATH」を選択し、「編集」をクリックします。



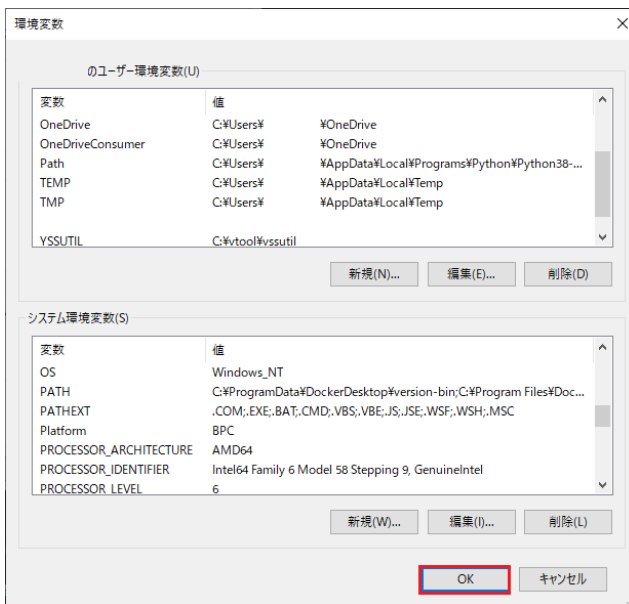
4. 「環境変数名の編集」画面が表示されるので、< % PDFオートコンバータEX のインストールフォルダ%/bin >のパスを選択し、「削除」をクリックします。



5. 「OK」をクリックします。



6. 「OK」をクリックします。



JARファイルの削除

連携エンジン PDFオートコンバータEX のJARファイルの削除手順を示します。

1. Apache Tomcat を停止させます。
2. PDFオートコンバータEX のJARファイル< autoex.jar >を、< %CATALINA_HOME%/lib >から削除します。
3. Apache Tomcat を再起動させます。

WARファイルの削除

連携エンジン PDFオートコンバータEX のWARファイルの削除手順を示します。

1. Apache Tomcat を停止させます。
2. PDFオートコンバータEX のWARファイル< axis2.war >を、< %CATALINA_HOME%/webapps >から削除します。
3. PDFオートコンバータEX のWARファイルと同名のディレクトリ< axis2 >を、< %CATALINA_HOME%/webapps >から削除します。
4. Apache Tomcat を再起動させます。



注意

連携エンジン PDFオートコンバータEX をセットアップしていない場合、手順は不要です。

連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール

Windows の場合

連携エンジン HTMLtoPDF をアンインストールする手順を示します。

項目

- [連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール](#)
- [環境変数の削除](#)
- [WARファイルの削除](#)

連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール

連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール手順については、「[連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール](#)」を参照してください。

環境変数の削除

環境変数の削除手順については、「[環境変数の削除](#)」を参照してください。

WARファイルの削除

WARファイルの削除手順を示します。

1. Apache Tomcat を停止させます。
2. HTML→PDF変換 のWARファイル< htmltopdf.war >を、< %CATALINA_HOME%/webapps >から削除します。
3. HTML→PDF変換 のWARファイルと同名のディレクトリ< htmltopdf >を、< %CATALINA_HOME%/webapps >から削除します。
4. Apache Tomcat を再起動させます。

Linux の場合

連携エンジン HTMLtoPDF をアンインストールする手順を示します。

項目

- [連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール](#)
- [環境変数の削除](#)
- [WARファイルの削除](#)

連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール

連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール手順については、「[連携エンジン HTMLtoPDF のアンインストール](#)」を参照してください。

環境変数の削除

環境変数の削除手順については、「[環境変数の削除](#)」を参照してください。

WARファイルの削除

WARファイルの削除手順を示します。

1. Apache Tomcat を停止させます。
2. HTML→PDF変換 のWARファイル< htmltopdf.war >を、< %CATALINA_HOME%/webapps >から削除します。
3. HTML→PDF変換 のWARファイルと同名のディレクトリ< htmltopdf >を、< %CATALINA_HOME%/webapps >から削除します。

```
$ rm %CATALINA_HOME%/webapps/htmltopdf.war
```

```
$ rm -r %CATALINA_HOME%/webapps/htmltopdf
```

4. Apache Tomcat を再起動させます。



注意

連携エンジン HTMLtoPDF をセットアップしていない場合、手順は不要です。

JDK のアンインストール

JDK が不要な場合は、アンインストールを行ってください。



コラム

アンインストールの手順については、次のサイトを参照してください。

<https://www.oracle.com/java/technologies/downloads/>（2023年 5月 現在）

Apache Tomcat のアンインストール

Apache Tomcat が不要な場合は、アンインストールを行ってください。



コラム

アンインストールの手順については、次のサイトを参照してください。

<http://tomcat.apache.org/> (2021年 4月 現在)

WSDLファイル

以下に WSDL ファイルを記載します。ご利用ください。

```

1 <wsdl:definitions xmlns:wsdl="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/" xmlns:ns1="http://org.apache.axis2/xsd"
2 xmlns:ns="http://service.soap.autoconverterex.yss" xmlns:wsaw="http://www.w3.org/2006/05/addressing/wsdl"
3 xmlns:http="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/http/" xmlns:ax21="http://config.com.soap.autoconverterex.yss/xsd"
4 xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:mime="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/mime/"
5 xmlns:soap="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/soap/" xmlns:soap12="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/soap12/"
6 targetNamespace="http://service.soap.autoconverterex.yss">
7 <wsdl:documentation>PDFAutoEXService</wsdl:documentation>
8 <wsdl:types>
9 <xs:schema attributeFormDefault="qualified" elementFormDefault="qualified"
10 targetNamespace="http://config.com.soap.autoconverterex.yss/xsd">
11 <xs:complexType name="AutoExConfig">
12 <xs:sequence>
13 <xs:element minOccurs="0" name="befTimeoutSec" type="xs:int"/>
14 <xs:element minOccurs="0" name="docInfAndSecurity" nillable="true" type="xs:string"/>
15 <xs:element minOccurs="0" name="docInfByName" nillable="true" type="xs:string"/>
16 <xs:element minOccurs="0" name="docInfo" nillable="true" type="ax21:DocInfo"/>
17 <xs:element minOccurs="0" name="fastWebView" type="xs:boolean"/>
18 <xs:element minOccurs="0" name="folderName" nillable="true" type="xs:string"/>
19 <xs:element minOccurs="0" name="overWrite" type="xs:boolean"/>
20 <xs:element minOccurs="0" name="printerName" nillable="true" type="xs:string"/>
21 <xs:element minOccurs="0" name="securityByName" nillable="true" type="xs:string"/>
22 <xs:element minOccurs="0" name="stampName" nillable="true" type="xs:string"/>
23 <xs:element minOccurs="0" name="timeoutSec" type="xs:int"/>
24 <xs:element minOccurs="0" name="transTimeoutMSec" type="xs:int"/>
25 <xs:element minOccurs="0" name="sec128" nillable="true" type="ax21:Security128"/>
26 <xs:element minOccurs="0" name="sec40" nillable="true" type="ax21:Security40"/>
27 <xs:element minOccurs="0" name="secType" type="xs:int"/>
28 <xs:element minOccurs="0" name="srcFileSuffix" nillable="true" type="xs:string"/>
29 <xs:element minOccurs="0" name="srcfile" nillable="true" type="xs:base64Binary"/>
30 </xs:sequence>
31 </xs:complexType>
32 <xs:complexType name="DocInfo">
33 <xs:sequence>
34 <xs:element minOccurs="0" name="app" nillable="true" type="xs:string"/>
35 <xs:element minOccurs="0" name="creator" nillable="true" type="xs:string"/>
36 <xs:element minOccurs="0" name="keyword" nillable="true" type="xs:string"/>
37 <xs:element minOccurs="0" name="subTitle" nillable="true" type="xs:string"/>
38 <xs:element minOccurs="0" name="title" nillable="true" type="xs:string"/>
39 </xs:sequence>
40 </xs:complexType>
41 <xs:complexType name="Security128">
42 <xs:sequence>
43 <xs:element minOccurs="0" name="acc" type="xs:int"/>
44 <xs:element minOccurs="0" name="change" type="xs:int"/>
45 <xs:element minOccurs="0" name="copy" type="xs:int"/>
46 <xs:element minOccurs="0" name="openPassword" nillable="true" type="xs:string"/>
47 <xs:element minOccurs="0" name="print" type="xs:int"/>
48 <xs:element minOccurs="0" name="securityPassword" nillable="true" type="xs:string"/>
49 </xs:sequence>
50 </xs:complexType>
51 <xs:complexType name="Security40">
52 <xs:sequence>
53 <xs:element minOccurs="0" name="noAddNote" type="xs:boolean"/>
54 <xs:element minOccurs="0" name="noCopy" type="xs:boolean"/>
55 <xs:element minOccurs="0" name="noEdit" type="xs:boolean"/>
56 <xs:element minOccurs="0" name="noPrint" type="xs:boolean"/>
57 <xs:element minOccurs="0" name="openPassword" nillable="true" type="xs:string"/>
58 <xs:element minOccurs="0" name="securityPassword" nillable="true" type="xs:string"/>
59 </xs:sequence>
60 </xs:complexType>
61 <xs:complexType name="AutoExResponse">
62 <xs:sequence>
63 <xs:element minOccurs="0" name="callException" type="xs:boolean"/>
64 <xs:element minOccurs="0" name="errormess" nillable="true" type="xs:string"/>
65 <xs:element minOccurs="0" name="res" nillable="true" type="xs:base64Binary"/>
66 <xs:element minOccurs="0" name="templID" type="xs:long"/>
67 </xs:sequence>
68 </xs:complexType>
69 </xs:schema>
70 <xs:schema xmlns:ax22="http://config.com.soap.autoconverterex.yss/xsd" attributeFormDefault="qualified"
71 elementFormDefault="qualified" targetNamespace="http://service.soap.autoconverterex.yss">
72 <xs:import namespace="http://config.com.soap.autoconverterex.yss/xsd"/>
73 <xs:element name="clearPDFAutoConverterEX">
74 <xs:complexType>
75 <xs:sequence>
76 <xs:element minOccurs="0" name="templID" type="xs:long"/>
77 </xs:sequence>
78 </xs:complexType>
79 </xs:element>
80 <xs:element name="clearPDFAutoConverterEXResponse">
81 <xs:complexType>
82 <xs:sequence>
83 <xs:element minOccurs="0" name="return" type="xs:boolean"/>
84 </xs:sequence>
85 </xs:complexType>
86 </xs:element>

```

```

87 </xs:element>
88 <xs:element name="isPDFAutoConverterEXResponse">
89 <xs:complexType>
90 <xs:sequence>
91 <xs:element minOccurs="0" name="return" type="xs:boolean"/>
92 </xs:sequence>
93 </xs:complexType>
94 </xs:element>
95 <xs:element name="cnvPDFAutoConverterEX">
96 <xs:complexType>
97 <xs:sequence>
98 <xs:element minOccurs="0" name="autoexconf" nillable="true" type="ax22:AutoExConfig"/>
99 </xs:sequence>
100 </xs:complexType>
101 </xs:element>
102 <xs:element name="cnvPDFAutoConverterEXResponse">
103 <xs:complexType>
104 <xs:sequence>
105 <xs:element minOccurs="0" name="return" nillable="true" type="ax22:AutoExResponse"/>
106 </xs:sequence>
107 </xs:complexType>
108 </xs:element>
109 </xs:schema>
110 </wsdl:types>
111 <wsdl:message name="clearPDFAutoConverterEXRequest">
112 <wsdl:part name="parameters" element="ns:clearPDFAutoConverterEX"/>
113 </wsdl:message>
114 <wsdl:message name="clearPDFAutoConverterEXResponse">
115 <wsdl:part name="parameters" element="ns:clearPDFAutoConverterEXResponse"/>
116 </wsdl:message>
117 <wsdl:message name="cnvPDFAutoConverterEXRequest">
118 <wsdl:part name="parameters" element="ns:cnvPDFAutoConverterEX"/>
119 </wsdl:message>
120 <wsdl:message name="cnvPDFAutoConverterEXResponse">
121 <wsdl:part name="parameters" element="ns:cnvPDFAutoConverterEXResponse"/>
122 </wsdl:message>
123 <wsdl:message name="isPDFAutoConverterEXRequest"/>
124 <wsdl:message name="isPDFAutoConverterEXResponse">
125 <wsdl:part name="parameters" element="ns:isPDFAutoConverterEXResponse"/>
126 </wsdl:message>
127 <wsdl:portType name="PDFAutoEXServicePortType">
128 <wsdl:operation name="clearPDFAutoConverterEX">
129 <wsdl:input message="ns:clearPDFAutoConverterEXRequest" wsaw:Action="urn:clearPDFAutoConverterEX"/>
130 <wsdl:output message="ns:clearPDFAutoConverterEXResponse"
wsaw:Action="urn:clearPDFAutoConverterEXResponse"/>
131 </wsdl:operation>
132 <wsdl:operation name="cnvPDFAutoConverterEX">
133 <wsdl:input message="ns:cnvPDFAutoConverterEXRequest" wsaw:Action="urn:cnvPDFAutoConverterEX"/>
134 <wsdl:output message="ns:cnvPDFAutoConverterEXResponse"
wsaw:Action="urn:cnvPDFAutoConverterEXResponse"/>
135 </wsdl:operation>
136 <wsdl:operation name="isPDFAutoConverterEX">
137 <wsdl:input message="ns:isPDFAutoConverterEXRequest" wsaw:Action="urn:isPDFAutoConverterEX"/>
138 <wsdl:output message="ns:isPDFAutoConverterEXResponse"
wsaw:Action="urn:isPDFAutoConverterEXResponse"/>
139 </wsdl:operation>
140 </wsdl:portType>
141 <wsdl:binding name="PDFAutoEXServiceSoap11Binding" type="ns:PDFAutoEXServicePortType">
142 <soap:binding transport="http://schemas.xmlsoap.org/soap/http" style="document"/>
143 <wsdl:operation name="clearPDFAutoConverterEX">
144 <soap:operation soapAction="urn:clearPDFAutoConverterEX" style="document"/>
145 <wsdl:input>
146 <soap:body use="literal"/>
147 </wsdl:input>
148 <wsdl:output>
149 <soap:body use="literal"/>
150 </wsdl:output>
151 </wsdl:operation>
152 <wsdl:operation name="cnvPDFAutoConverterEX">
153 <soap:operation soapAction="urn:cnvPDFAutoConverterEX" style="document"/>
154 <wsdl:input>
155 <soap:body use="literal"/>
156 </wsdl:input>
157 <wsdl:output>
158 <soap:body use="literal"/>
159 </wsdl:output>
160 </wsdl:operation>
161 <wsdl:operation name="isPDFAutoConverterEX">
162 <soap:operation soapAction="urn:isPDFAutoConverterEX" style="document"/>
163 <wsdl:input>
164 <soap:body use="literal"/>
165 </wsdl:input>
166 <wsdl:output>
167 <soap:body use="literal"/>
168 </wsdl:output>
169 </wsdl:operation>
170 </wsdl:binding>
171

```

```

173 </wsdl:binding name="PDFAutoEXServiceSoap12Binding" type="ns:PDFAutoEXServicePortType">
174 <soap12:binding transport="http://schemas.xmlsoap.org/soap/http" style="document"/>
175 <wsdl:operation name="clearPDFAutoConverterEX">
176 <soap12:operation soapAction="urn:clearPDFAutoConverterEX" style="document"/>
177 <wsdl:input>
178 <soap12:body use="literal"/>
179 </wsdl:input>
180 <wsdl:output>
181 <soap12:body use="literal"/>
182 </wsdl:output>
183 </wsdl:operation>
184 <wsdl:operation name="cnvPDFAutoConverterEX">
185 <soap12:operation soapAction="urn:cnvPDFAutoConverterEX" style="document"/>
186 <wsdl:input>
187 <soap12:body use="literal"/>
188 </wsdl:input>
189 <wsdl:output>
190 <soap12:body use="literal"/>
191 </wsdl:output>
192 </wsdl:operation>
193 <wsdl:operation name="isPDFAutoConverterEX">
194 <soap12:operation soapAction="urn:isPDFAutoConverterEX" style="document"/>
195 <wsdl:input>
196 <soap12:body use="literal"/>
197 </wsdl:input>
198 <wsdl:output>
199 <soap12:body use="literal"/>
200 </wsdl:output>
201 </wsdl:operation>
202 </wsdl:binding>
203 <wsdl:binding name="PDFAutoEXServiceHttpBinding" type="ns:PDFAutoEXServicePortType">
204 <http:binding verb="POST"/>
205 <wsdl:operation name="clearPDFAutoConverterEX">
206 <http:operation location="PDFAutoEXService/clearPDFAutoConverterEX"/>
207 <wsdl:input>
208 <mime:content type="text/xml" part="clearPDFAutoConverterEX"/>
209 </wsdl:input>
210 <wsdl:output>
211 <mime:content type="text/xml" part="clearPDFAutoConverterEX"/>
212 </wsdl:output>
213 </wsdl:operation>
214 <wsdl:operation name="cnvPDFAutoConverterEX">
215 <http:operation location="PDFAutoEXService/cnvPDFAutoConverterEX"/>
216 <wsdl:input>
217 <mime:content type="text/xml" part="cnvPDFAutoConverterEX"/>
218 </wsdl:input>
219 <wsdl:output>
220 <mime:content type="text/xml" part="cnvPDFAutoConverterEX"/>
221 </wsdl:output>
222 </wsdl:operation>
223 <wsdl:operation name="isPDFAutoConverterEX">
224 <http:operation location="PDFAutoEXService/isPDFAutoConverterEX"/>
225 <wsdl:input>
226 <mime:content type="text/xml" part="isPDFAutoConverterEX"/>
227 </wsdl:input>
228 <wsdl:output>
229 <mime:content type="text/xml" part="isPDFAutoConverterEX"/>
230 </wsdl:output>
231 </wsdl:operation>
232 </wsdl:binding>
233 <wsdl:service name="PDFAutoEXService">
234 <wsdl:port name="PDFAutoEXServiceHttpSoap11Endpoint" binding="ns:PDFAutoEXServiceSoap11Binding">
<soap:address
location="http://10.10.10.10:9090/autoexsoap/services/PDFAutoEXService.PDFAutoEXServiceHttpSoap11Endpoint/" />
</wsdl:port>
<wsdl:port name="PDFAutoEXServiceHttpSoap12Endpoint" binding="ns:PDFAutoEXServiceSoap12Binding">
<soap12:address
location="http://10.10.10.10:9090/autoexsoap/services/PDFAutoEXService.PDFAutoEXServiceHttpSoap12Endpoint/" />
</wsdl:port>
<wsdl:port name="PDFAutoEXServiceHttpEndpoint" binding="ns:PDFAutoEXServiceHttpBinding">
<http:address
location="http://10.10.10.10:9090/autoexsoap/services/PDFAutoEXService.PDFAutoEXServiceHttpEndpoint/" />
</wsdl:port>
</wsdl:service>
</wsdl:definitions>

```

注意

次のバージョンは、必ず正しい組み合わせで運用してください。異なる組み合わせはサポート対象外です。

- intra-mart Accel Platform のバージョン
- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform のバージョン
- 連携エンジンのバージョン

- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2025 Autumn](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2025 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2024 Autumn](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2024 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2023 Autumn](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2023 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2022 Winter](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2022 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2021 Winter](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2021 Summer](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2021 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2020 Winter](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2020 Summer](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2020 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2019 Winter](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2019 Summer](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2019 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2018 Winter](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2018 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2017 Winter](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2017 Summer](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2017 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2016 Winter](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2016 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2015 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2014 Winter](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2014 Spring](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2013 Winter](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2012 Winter](#)

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2025 Autumn

連携エンジン

Office系→PDF

変換

HTML→PDF変換

PDFコンバータ XP 7.0.5	PDFオートコンバータEX 5.0.2	HTMLtoPDF 1.0.1 Windows版
		HTMLtoPDF 1.0.1 Linux版

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2025 Spring

連携エンジン

Office系→PDF

変換

HTML→PDF変換

PDFコンバータ XP 7.0.3	PDFオートコンバータEX 5.0.1	HTMLtoPDF 1.0.1 Windows版
		HTMLtoPDF 1.0.1 Linux版

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2024 Autumn

連携エンジン

Office系→PDF

変換

HTML→PDF変換

PDFコンバータ XP 6.1.6	PDFオートコンバータEX 4.1.0	HTMLtoPDF 1.0.1 Windows版
		HTMLtoPDF 1.0.1 Linux版

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2024 Spring

連携エンジン	
PDFコンバータXP 6.1.6	PDFオートコンバータEX 4.1.0

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2023 Autumn

連携エンジン	
PDFコンバータXP 6.1.3	PDFオートコンバータEX 4.1.0

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2023 Spring

連携エンジン	
PDFコンバータXP 6.1.3	PDFオートコンバータEX 4.1.0

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2022 Winter

連携エンジン	
PDFコンバータXP 6.1.3	PDFオートコンバータEX 4.1.0

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2022 Spring

連携エンジン	
PDFコンバータXP 6.1.1	PDFオートコンバータEX 4.1.0

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2021 Winter

連携エンジン	
PDFコンバータXP 6.1.1	PDFオートコンバータEX 4.1.0

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2021 Summer

連携エンジン	
PDFコンバータXP 6.1.0	PDFオートコンバータEX 4.1.0

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2021 Spring

連携エンジン	
PDFコンバータXP 6.0.2	PDFオートコンバータEX 4.0.3

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2020 Winter

連携エンジン	
PDFコンバータXP 6.0.2	PDFオートコンバータEX 4.0.3

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2020 Summer

連携エンジン	
PDFコンバータXP 6.0.2	PDFオートコンバータEX 4.0.3

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2020 Spring

連携エンジン	
PDFコンバータXP 6.0.2	PDFオートコンバータEX 4.0.3

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2019 Winter

連携エンジン

PDFコンバータXP 6.0.1	PDFオートコンバータEX 4.0.1
------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2019 Summer

連携エンジン

PDFコンバータXP 6.0.1	PDFオートコンバータEX 4.0.1
------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2019 Spring

連携エンジン

PDFコンバータXP 5.1.8.1	PDFオートコンバータEX 3.6.4
--------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2018 Winter

連携エンジン

PDFコンバータXP 5.1.8.1	PDFオートコンバータEX 3.6.4
--------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2018 Spring

連携エンジン

PDFコンバータXP 5.1.7	PDFオートコンバータEX 3.6.3.2
------------------	-----------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2017 Winter

連携エンジン

PDFコンバータXP 5.1.7	PDFオートコンバータEX 3.6.3.2
------------------	-----------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2017 Summer

連携エンジン

PDFコンバータXP 5.1.7.2	PDFオートコンバータEX 3.6.3
--------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2017 Spring

連携エンジン

PDFコンバータXP 5.1.6	PDFオートコンバータEX 3.5.0
------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2016 Winter

連携エンジン

PDFコンバータXP 5.1.5	PDFオートコンバータEX 3.4.2
------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2016 Spring

連携エンジン

PDFコンバータXP 5.1.3	PDFオートコンバータEX 3.4.0
------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2015 Spring

連携エンジン

PDFコンバータXP 5.0.1	PDFオートコンバータEX 3.1.1
------------------	---------------------

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2014 Winter

連携エンジン

PDFコンバータXP 5.0.0	PDFオートコンバータEX 3.0.1
------------------	---------------------

[IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2014 Spring](#)

連携エンジン

PDFコンバータXP 5.0.0 b9 PDFオートコンバータEX 3.0.1

[IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2013 Winter](#)

連携エンジン

PDFコンバータXP 4.4.8 PDFオートコンバータEX 2.6.0

[IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2012 Winter](#)

連携エンジン

PDFコンバータXP 4.4.3 PDFオートコンバータEX 2.3.5
